

(表紙)

〔朱筆〕
明治

(ラベル)

海舟日記
第九号

④
四号

〔海舟日記7〕

從明治^三四^三庚午十月廿五日至

同^五四^五壬申正月十五日

日記

(見返し)

開墾場当人

上州群馬郡中山村信太歌之助^①

横浜元弁天内

竹田悌道娘

越後高田天野原住

本八丁堀

渡辺健蔵^②

池田屋忠兵衛方
伊勢佐太郎^③

浅艸実相院 一如院

権僧正 松靄

本郷西竹丁廿五番

手島霞居

伊勢塩河岸

大津屋喜右衛門方

長岡良之助殿^④

役 (1) もと歩兵差図

(2) 渡部健蔵(高田藩漢学者)

(3) 横井左平太(小楠の甥、明治二年にラトガース大学留学)

(4) 細川護美(熊本藩大参事)

三年東京

十月大

岸和田藩

相馬弘

北垣晋三郎

黒岡帯刀

序文出来

西村猪三郎

岩尾作左衛門

上村彦之丞

洋行之事

巖敷心願

市木策一郎

廿四日

浅野江紅葉山御金駿江廻候事、阿部潜薩州行之事、

御扶持方渡様之事談す 阿部江速ニ出發すへき直話

山岡江行く、榎本之事話す

廿五日

矢島源助 本堂銃太郎 赤松静兵衛 川島

真之丞 十時崇 佐土原藩兩人

川島、仁和寺様江御倍從英行と云

廿六日

大寄昌庸 妻木務 井上左仲 渡辺寛蔵

廿七日

肥後村井繁三郎 お亀 吉井江之手紙認遣す

廿八日

(5) 浅野氏祐(権大参事・政事庁掛)

(6) 少参事・軍事掛

(7) 山岡鉄太郎(権大参事・藩政補)

翼

(8) 榎本武揚(箱館降伏人、獄中)

(9) 北垣国道(鳥取藩士、弾正大巡察)

(10) 鹿兒島藩士、海軍操練所生徒

(11) 志筑藩士

(12) 河島醇(鹿兒島藩士)

(13) 小松宮(東伏見宮) 彰仁親王

(14) 長瀨藩士

(15) 妻木頼矩(権大参事・公用掛)

(16) 高知藩士、海軍操練所生徒

(17) (18) 鹿兒島藩士

(19) 吉井友実(鹿兒島藩士、民部少輔)

明治三年十月二十四日〜二十八日

国元江召返さ
る、と云、岡本
貞次郎并遠
州在郷之話

仙台より富
田之事問合
返事遣す

古海初衛
山田藩某

宮寄誠一郎
毛利恭助
能勢之事頼ム

① 島山潮平・古海初衛 松平原太郎

廿九日 黒川伝二郎

肥後平山彦三郎 木村芥舟、身分之事内話頼

④ 竹内半介、妻木宅江軒宅之事話す

⑤ 阿部邦江、西郷□良之助殿・柳河大村・十時江之書状

遣す

閏十月朔日 黒川伝二郎、吉井江面会すと云々

浅野、人滅之事、平岡丹波殿之事等談す并木村

⑨ 本多敏三郎
——之進退等

二日

本多金兵衛願差出候事、昨浅野江頼む

石井義郎、紀州家遣候事談、竹内江一封遣す

川村権七、明後日駿行暇乞 内田并吉兵衛江行

三日

木村芥舟 吉兵衛 十時 山高

(1) 上杉勝賢(米沢藩士)

(2) 古海長義(米沢藩士)

(3) 木村喜毅(もと海軍所頭取)

(4) 武内孫介(和歌山藩士)

(5) 阿部潜(少参事・軍事掛、鹿児島招聘)

(6) 西郷隆盛(鹿児島藩大参事)

(7) 細川護美(熊本藩大参事)

(8) 平岡道弘(大参事)

(9) 本多晋(民部省出仕)

(10) 富田鉄之助(仙台藩士、米国留学中)

(11) 宮島誠一郎(米沢藩士)

(12) 高知藩士

浜武慎助⁽¹⁶⁾

国許ニ而養

子いたし候ても

宜敷旨達

御暇願御聞届
日数十五日

玉児順三郎⁽¹⁷⁾

道家婦一⁽²²⁾
荒木卓爾⁽²³⁾

西方江置

候旨申聞

四日 妻木江家作代九拾兩渡す

杉浦八郎五郎、阿部之事申聞る 浅野江木村之事申遣す

上杉家より鑪久使者国許目録到来

福田半蔵⁽¹⁴⁾ 奥宮周次郎⁽¹⁵⁾ 柳川生三人

能勢益堂 毛利恭江一封遣す

五日

木村 ○紀州権大参事橋本生・竹内半介

柳河藩、静岡参り度旨申聞 東條

六日

千田伝一郎・園田清吉、阿部之事頼ミ

津田真一郎 宮寄謙蔵 依田右衛門太郎 毛受⁽¹⁹⁾

洪、近々帰国ニ付暇乞 ○竹内江住宅之礼、掛江

二千疋遣す

七日

宮内雄蔵⁽²⁰⁾ 大久保殿江来春迄御暇御含

(13) 権少参事・政事序掛

(14) 福田敬業(金沢藩士)

(15) 高知藩士

(16) 熊本藩士、海

舟門下生

(17) 橋本敬夫(紀州藩大参事)

(18) 津田真道(刑部少判事)

(19) 福井藩士

(20) 鹿兒島藩士

(21) 大久保利通

(参議)

(22) 津山藩士、海

舟門下生

(23) 西周塾生、福

井藩士か

置可被下旨頼む

八日

屋敷より山岡・榎本・福田江行く

九日

竹内江和歌山知事殿江呈す鉄炮為持遣す

池上四郎 長谷部甚平 太政官小史某

川島新之丞、洋行ニ付暇乞として来訪

十日 出立

十四日 帰着

十五日

届差出、大久保江一封遣す 林三郎 駒井竹所

室賀竹堂 薩生三人

十六日 身分御手当之事、四百両と申立る、

知事殿江参、五六ヶ条申立 桜井庄兵衛 山本庄右衛門

十七日

一堂様江参上 酒井閑亭・河野九郎・梅沢

(1) 徳川茂承

(2) 鹿兒島藩士

(3) 福井藩士

(4) 大久保忠寛

(一翁、権大参事、

閏十月免官)

(5) 林惟純(開業

方物産掛)

(6) 駒井朝温(も

と海軍奉行並)

(7) 室賀正容(慶

喜附家令)

(8) 徳川家達(静

岡藩知事)

(9) 桜井秀雄(新

居勤番組頭)

(10) 徳川慶喜

(11) 酒井忠績(も

と姫路藩主)

(12) 河野通和(権

大参事・会計掛)

(13) 慶喜付家令

(14) 松平信敏(少

参事・政事庁掛)

(15) 外山正一(静

岡学問所一等教授、

明治三年十月二十五

日に外務省弁務少記

(16) 大儀見元一郎

墓参

香奠百疋

世良松吉⁽²⁸⁾
片山椿助⁽²⁹⁾
多賀高彦

宮田文吉⁽²⁸⁾
三百兩持
參、服部⁽⁵⁾
差越候旨也

孫太郎、同人方を訪らふ⁽¹⁴⁾ 松平勘太郎、⁽¹⁵⁾外山捨八

米国江被遣候ニ付出府被仰渡有之旨也

大木美并熊吉、⁽¹⁶⁾心情を歎願す⁽¹⁷⁾

松蔵米国江行くニ付悻方一封頼ミ且飯塚⁽¹⁸⁾・

寛江五拾兩届方頼ミ遣す⁽²¹⁾

十八日

外山捨八、明十九日東京江出立、米国行被仰付へく旨

なりといふ、大木美・木村并黒塚之事内談⁽⁹⁾

河野左門 名倉弥五郎⁽²²⁾ ○織田・服部⁽²⁴⁾・戸川之三氏、⁽²⁵⁾

一昨日溝口江談候件々承伏之旨、且木村・曾谷⁽²⁷⁾・大

木美米行致させへむ旨内談、同夜三子来ル、明⁽⁷⁾

朝東京江出立之旨、六百兩渡す

十九日

松平勘太郎、小林江一封遣す⁽³⁰⁾ 溝口八十郎賤機織持參

権大参事江普請之事、昨夜大木見已下之事等

(藩政補翼付属)

(17) 木村熊二(藩政補翼付属)

(18) 出島松造か

(19) 勝小鹿(海舟長男)

(20) 飯塚十松(静岡藩士)

(21) 寛庄三郎(静岡藩士)

(22) 名倉知彰(静岡病院三等医師)

(23) 織田信重(権大参事・郡政掛)

(24) 服部常純(大参事・軍事掛)

(25) 戸川安愛(権大参事・公用掛)

(26) 溝口勝如(家達付家令)

(27) 曾谷言成(静岡学問所五等教授)

(28) 宮田正之(権少参事・会計掛)

(29) 片山雄八郎(军事掛军事俗務方頭取)

(30) 小林年保(公用掛下役)か

申遣す 向山⁽¹⁾黄村、曾谷并木村之事談す

廿日

川村権七、明日東京江出立と云 溝口より五百両預

一翁江行く

廿一日

水沢主水 飯田庄蔵 酒井閑亭を訪ふ

廿二日

宮内・寺田⁽⁴⁾、東京より帰着 酒井閑亭

桜井庄兵衛、井上八郎江一封頼む 富田貞次郎⁽⁶⁾

松屋伊助江一封認遣す 乙骨太郎乙⁽⁸⁾

中村六三郎、得太郎之事談す 瀧村小太郎⁽¹⁰⁾

廿三日

門屋江行く 服部綾雄 薩生来訪

廿四日

服部綾雄、東京詰之手当持参受取 和田助三郎⁽¹¹⁾

林⁽¹²⁾紀

(1) 静岡学問所
頭・少参事・学校掛

(2) 幹事役付属

(3) 飯田庄蔵(海
舟門下、もと講武所
砲術師範役)

(4) 寺田平之進(弘、
鹿兒島藩士)

(5) 井上清虎(浜
松・中泉勤番組頭)

(6) 山口藩士

(7) 熊谷伊助
(ウォルシュ・ホー
ル商会番頭)

(8) 静岡学問所一
等教授

(9) 中村則秀(大
学出仕)

(10) 滝村鶴雄(家
達付家扶)

(11) 宮路助三郎
(もと遊撃隊士)

(12) 静岡病院病院
頭

薩州留学之事談す 服部・矢田堀江訪ふ、服部江

世良松橋東京学問修行之事を談す、矢田江算師ヲ頼む

廿五日

寺田平之丞^(進) 渡辺寛蔵 神保隠居

廿七日

神保隠居、塩浜之事頼む 中村敬介、教師之事談

梅沢孫太郎 杉浦清介⁽¹⁵⁾

藤沢長太郎、徳島藩吾に藩士借受度旨申聞

惣左衛門、金子来八月迄留置度旨申聞、四拾三両二分

持参、地面入用十六両遣す 薩生三人

廿八日 日比野々明日出立之旨申越

○由利元十郎、世良松橋留学願聞濟相成

候旨申聞 宮崎元敬 高橋精一郎⁽²⁰⁾

廿九日 ○

妻木務 藤沢より文通 高山隼之助⁽²¹⁾

(13) 矢田堀鴻(権少参事・軍事掛)

(14) 中村正直(静岡学問所一等教授)

(15) 杉浦赤城(沼津兵学校三等教授並)

(16) 藤沢次謙(少参事・軍事掛)

(17) 白鳥惣左衛門(安倍郡門屋村名主)

(18) この記事は二十九日条に相当するか。

(19) 由利元(静岡勤番組頭並)

(20) 高橋精一(泥舟、田中勤番組頭)

(21) もと勘定

十一月朔日

米国より六月廿八日認之書状着

妻木務

二日

服部・溝口江行く 山岡鉄太郎 藤沢長太郎

中島理八⁽¹⁾

三日

福井藩士兩人 中村六三郎 西野三郎 寺田平之

丞、明後日出京一旦帰国之旨 杉浦清介

四日

中條金之助、地所之事申談す 中村六三郎

寺田江附シ大山格之助・村田新八并梅沢・人見・和田江

一封、且大久保殿江同断 ○伴鉄太郎江見舞状

金子三両、片山江届方頼む

宮寄元孟、近々弘前江参り候由 男谷勝三郎

五日

平岡四郎⁽¹²⁾

(1) 静岡藩會計方

(2) 中条景昭附屬、水戸出身

(3) 中条景昭(開墾掛頭)

(4) (5) 鹿兒島藩士

(6) 梅沢敏(もと遊撃隊士)

(7) 人見寧(同右)

(8) 大久保利通(参議)

(9) 沼津兵学校一等教授

(10) 宮崎立元(静岡学問所三等教授)

(11) 権少参事・郡政掛

(12) 平岡準(権少参事・會計掛)

相模
塩海村

伊達立民

御暇日延願
御聞濟書付杉山⁽¹⁵⁾
秀太郎が来る

井上八郎が遠
州地所おもハ敷
無之旨申越

岡田跡目、
六人□に相慮⁽²⁾
七郎相統

六日

伊達養民 宮寄立元⁽¹³⁾ 藤沢長太郎、沼津陸軍金

子之転末話す 小林長次郎⁽¹⁴⁾ 大屋村江行く

藤沢子 ○丸子江行き柴屋寺・誓願寺・片桐氏之古墳

を見る 中島理八

七日

中島理八江東京留守宅江端物二反其外届物頼む

宮寄江餞別遣す ○小田切綱一郎⁽¹⁶⁾

瀧村小太郎、明日岡田跡七郎江相立候旨二付名代
之世話す

八日

清水港江行く、松本屋・薩摩屋并木村甲斐を訪ふ

杉浦氏・宮寄氏来る

九日

大久保江行く 杉浦并某⁽²⁰⁾

(13) 静岡学問所三等教授

(14) 小林年保(公用方下役)

(15) 杉山一成(公用人)

(16) 静岡学問所三等教授

(17) 岡田斧吉(遊撃隊頭取改役、箱館戦死)

(18) 海舟四男(岡田義徴)

(19) 木村勝教(もと勘定奉行)か

(20) 大久保一翁

十日

瀬名村江行く ○室賀竹堂 南一郎無心申聞、

式兩遣す

(1) 室賀正容 (慶喜付家令)

十一日

室賀竹堂、明日遠州江出立之旨 神保隠居

杉浦清介、書物之代五兩遣す

浜口儀兵衛・近藤清五郎、国許江小菅辰三

郎借受度旨申聞、早速返答承度旨二付宜敷

由答、小菅江一封遣す

(2) 浜口梧陵 (和歌山藩少参事)

(3) 近藤清次郎 (もと仏式伝習隊、和歌山藩工兵隊長)

か

(4) 小菅智淵 (もと工兵頭並、箱館降

伏人)

(5) (6) 鹿兒島藩士

(7) 新見史雄 (静岡学問所教授世話心得)

(8) 戸川安愛

(9) 中条景昭 (潜蔵・金之助) か

高山又吉

最上五郎
種田清右衛門

十二日

新見幾三郎 ○溝口八十郎、金谷三而地所買入

之事并神保大谷村塩浜之事等談す

戸川平太江小菅辰三郎之事談す

十三日

久保田藩高瀬克蔵 山岡鉄太郎・中條金蔵

同人江地方之代五百両渡す

知事様より御直書、^⑩宮様より之御菓子頂戴

十四日

平間村草薙遊行 浅野参事^⑫

佐々木巳三郎学問修行願、掛川勤番組頭江

文通為持遣す、立川小三郎本日東京江出立、

右等之転末同夜服部江談濟 ○浅野参事

十五日

深津仰山 木村霞民 杉亨二 林三郎^⑬

杉浦清介

十六日

中野 津島 小島七郎弟 名護屋藩青山

魁次郎 服部六十一・十二月俸金百七両式分三

朱と永四文来る

十七日

⑩ 徳川家達
⑪ 静寛院宮(和宮)

⑫ 浅野氏祐

⑬ 佐久間千三郎
(貞一、掛川勤番組)

⑭ 深津正邦(静岡藩病院俗務取扱)

⑮ 沼津兵学校二等教授、十二月末に民部省出仕

⑯ 林惟純(開業方物産掛)

堀氏十勝より帰郷、形勢話談 丹羽某惇太郎⁽¹⁾

弟青山魁二郎 山岡・関口 中野⁽³⁾

十八日

青山魁々唐紙

十九日

浅野氏 熊本藩隈坂閑水 下山良太郎、⁽⁴⁾

飯塚簾作手紙持参

東京馬屋原より頼候届物其俣返り

廿日

○佐々木子三郎、為修行東京江出立之旨申聞る⁽⁶⁾

酒井幸五郎 立田政吉郎⁽⁸⁾

廿一日

檜隈閑水出立ニ付塚本恒輔江一封認遣す 酒井⁽¹⁾

禄四郎 内藤七太郎 最上五郎 青山魁次郎

妻木江行く 内藤江立川之事談す⁽¹³⁾

(1) 堀利孟 (十勝詰開業方頭)

(2) 丹羽賢 (惇太郎、名古屋藩大参事)

(3) 関口隆吉 (金谷開墾方頭取格)

(4) 明治二年当時は二等更番組

(5) 飯塚年整 (静岡藩掛川小学校教授)

(6) 佐久間千三郎 (貞一、掛川勤番組)

(7) 酒井忠惇 (もと姫路藩主)

(8) 静岡藩開業方物産掛

(9) 安井息軒 (仲平、儒学者)

(10) 塚本明毅 (十一月三十日に沼津兵学校頭取)

(11) 酒井忠恕 (家達付家令)

(12) 掛川勤番組頭

並 (13) 妻木頼矩

小山田江無心申聞
候ニ付三両遣す

廿二日

佐々倉桐太郎 神保霞栖 岡野江行く

廿三日

酒井幸五郎 伊達立民近々帰国之由

廿四日

片山椿助 下山良太郎、同人江内藤七太郎方江

遣す一封認渡す

廿五日

最上五郎、寺田平之丞⁽¹⁵⁾孛漏生行、伏見宮御附

属被仰付旨、島津帶刀英留学拜命と云

小山田生 中島理八、東京江届物頼む

古屋作左衛門倅庚次郎、名跡相立候礼、磯野貞二同

道 ○内藤七太郎〆下山望月方入塾速ニ聞濟可申、

且立川并佐々木子三郎東京にて御扶持受取方明日出立

之朝倉江申談旨 ○近藤弘、康熙字典届

(14) 権少参事・水利路程掛

(15) 片山雄八郎 (軍事俗務方頭取)

(16) 能久親王 (もと輪王寺宮)

(17) 黒岡帶刀 (鹿兒島藩士、海軍操練所生徒)

(18) 古屋佐久左衛門 (衝鋒隊隊長、箱館戦争で戦死)

(19) 望月綱 (静岡学問所一等教授)

(20) 朝倉俊徳 (静岡藩用人) か

宮田文吉、明日東京出立之旨 杉浦清介⁽²⁾

薩藩浜田悠哉

小菅辰三郎、明後日紀州行之暇乞、刀一本遣す

廿六日 米国⁽³⁾ハ悻⁽³⁾先生越前江被雇候旨一封来ル

山岡氏 最上五郎 小沢金五郎、出火見舞之礼

藤沢・神保・駒井江行く⁽¹⁾

廿七日

藤沢長太郎、小菅之事、沼津⁽⁴⁾同行之者之事

等談す 戸川平太、蝦夷地所置之事、地税

并長屋立遣す者之事等相談、且沼津表

塚本頭取并並之人物之事等

春嶽殿江米国人之事、并同人江悻礼状差出⁽⁵⁾

東京より於信不快、兼父病死之旨申越

廿八日

最上五郎、明朝東京江出立之旨、此頃黒田了介⁽⁶⁾

(1) 宮田正之(権少参事・会計掛)

(2) 杉浦赤城(沼津兵学校三等教授並)

(3) W・E・グリフィス

(4) 駒井竹所(朝温、もと海軍奉行並)

(5) 松平慶永(もと福井藩主、麿香間祇候)

(6) 黒田清隆(開拓次官)

西大平藩
渡辺純一郎
井上恒三郎

兼姉江
三河遣候旨

洋行可被仰付、右江陪従哉と云 青山魁次郎、明

朝尾張江帰りと云 東京より大山格之助之書状

着

廿九日 竹内半介より来状

最上五郎出立三付、大山格之助・黒田了介江一封頼む

安井幹介、東京江参り旅用無之ニ付三両

河野左門 小山田 大宮之住人池谷原三郎

伴門五郎養子、礼跡目相続願濟ニ付て也

晦日

溝口、五百両持参預り置、且山岡氏地所遣し可申

事談す 多賀高彦^(高カ) 人見勝太郎⁽¹⁰⁾

池谷^ニ原^ニ三郎 沼津三枝橋精六郎

十二月朔日

河野左門 人見勝太郎同道にて大谷村江行

浅野江行、塩浜御買揚跡御所置并蝦夷地之事等

(7) 武内孫介(和歌山藩士)

(8) 河野通和(権大参事・会計掛)

(9) 彰義隊士、上野戦争で戦死、養子は長島弘道の子銘五郎

(10) 人見寧(もと遊撃隊士)

(11) 浅野氏祐(権大参事・政事序掛)

相談

二日

七右衛門、巴川堀割
ニ付而は金子貳万
五千両調立可致
旨申聞る

水沢宗太郎 下田佳民、馬場某同道七右衛門 甚太郎、榊(1)

原之臣下同道心裡之内願相頼む

三日

蘭鑑三郎 友成登、井上八郎江同人ニ貳百両借遣(2)

可申旨一封認渡す ○東京世良松橋 富田貞二郎(4)

ゝ来状、同人洋行出来可致旨 荒木卓爾(5)の書状、南校

教師洋人式人先月下旬暗殺之事ありと云(6)

四日 風邪、来人面会断

五日 六日 七日

八日 妻木務(7) 山岡鉄太郎

東京より米国島津又之進殿之一封到着、啓二郎(9)

殿・児玉者同所江止まり三浦者英国江発行と云(11)

九日

(1) 出島竹斎(小鹿村名主)

(2) 蘭鑑(沼津兵学校三等教授から十一月晦日に静岡学問所二等教授となる)

(3) 井上清虎(浜松・中泉勤番組頭)

(4) 山口藩士

(5) 西周塾生、福井藩士か

(6) チャールズ・ダラスとオーギュスト・リング

(7) 妻木頼矩(権大参事・公用掛)

(8) 島津忠亮(佐土原藩主の子)

(9) 島津(町田)啓次郎(忠亮の弟)

(10) 児玉章治(章介、佐土原藩士)

(11) 三浦十郎(佐土原藩士、仏か独に留学)

中村敬太郎、山岡・中條同人江洋人雇入へく間、

隊中江無礼殺害いたし問敷旨内談

小田切綱一郎

十日

神保霞栖 乙骨太郎乙 片山直人

十一日

神保、塩浜之事浅野江承候処御買揚治定之旨札

申聞る ○浜口儀兵衛の文通、百両為持遣す

福田鳴鷺より一封来る

十二日

米国より十月廿日出之書状并写真・本等、筑前平

賀磯三郎帰朝持参之旨ニ而東京より着

徳山日比野克三之書状到来、医者借用稽古人

差越候旨也、同日藤沢方江書状為持遣す

小菅辰三郎、沼津の之書状、筒井於兎吉和歌山江

(12) 中村正直(静岡学問所一等教授)

(13) 中条景昭(開墾掛頭)

(14) 静岡学問所三等教授

(15) 静岡学問所一等教授

(16) 沼津兵衛学校資業生

(17) 浜口梧陵(和歌山藩少参事)

(18) 福田敬業(金沢藩士)

(19) 平賀義質(福岡藩士、のち司法少判事)

(20) 徳島藩士

(21) 藤沢次謙(少参事・軍事掛)

(22) 小菅智淵(もと工兵頭並、箱館降伏人)

(23) 筒井義信(もと工兵隊頭取改役、箱館降伏人)

同道之旨、藤沢江表向達方申遣す

十三日

大久保止 杉浦清介 山岡鉄太郎・中條

金之助、三百兩渡す 溝口千兩外三百兩

預り置 中條隊中之者洋人御雇入ニ付異存者

多分無之旨中條申聞る ○赤松静衛、明日出立と云

十四日 東京平兵衛子供三兩、与三郎着物貳兩、お信二兩、

橋場男谷婆々病死ニ付三兩 ○浜口儀兵衛江三所物

壹封、金沢江米国之壹封、仙台并庄内江米国之書状

壹封宛、明日後出立之中島理八江頼む

十五日

中島理八江、大井栄之助并佐藤与之助兩人江

米国より差越候一封書籍届方頼む、但金

沢江附し届頼む分也 人見勝太郎

寺田平之丞(通)文通、不快ニ付伏見満宮様孝行御供(マ)ニ送れ

(1) 小島勤番組頭

並 (2) 溝口勝如(家
達付家令)

(3) 静岡藩會計方

(4) 佐藤政養(民
部省出仕、十二月二
十八日に工部省出
仕)

(5) 寺田弘(鹿兒
島藩士)

(6) 伏見宮能久親
王

川村兵部大丞江
白戸之事申遣
文通、岡部江託
す

候旨、五十日之御暇国許江参り後便出発と云

駒井竹所、木村霞宿、同人当地ニ而職之事

教示いたし度旨内話

浅野江行き、神保塩浜之事其他種々相談

十六日

新見幾太郎 和歌山岸彦九郎、同人話

ニ云、和歌山にて蘭人下等士官雇料月々三百

弗、是にて食料其他手賄と云 人見勝太郎

神保霞栖江大屋村家作・道具代六百両渡す

白戸真砂江面会、出府之事并心得之事内話

十七日

柳原殿より来翰、通弁翻訳出来候者吟味可申上

旨也 岩波殿用人学問修行いたし度旨、同人小拙方江

寄宿之所、宮木鳴頼越す 聞く、当月三日西園⁽¹⁰⁾

寺殿・万里小路殿・東久世御子息・岩野殿等、英国

(7) 新見史雄(郁三郎、静岡学問所教授世話心得)か

(8) 白戸隆盛(石介、沼津勤番組頭)
(9) 柳原前光(外務大丞)

(10) 西園寺公望(もと新潟府知事)
(11) 万里小路通房(もと軍務官副知事助勤)

(12) 東久世通暉
(13) 石野基将
(14) 川村純義

江留学出発と云 山岡鉄太郎

十八日

神保隠居、人見江引合、大屋村今日受取

大屋村江行く 白戸^① 木村内^①家

十九日 木村熊^②二家内江二十両渡す 白戸石介

向山江訪ふ、人見之事、洋人之事其他話す 石野江行く^③

溝口江川村之事申置く 佐藤与之助鉄道見分ニ而東^④

京江帰府之旨 木村霞宿、御扶助御長屋之事頼

廿日

小出一 貫一、石野江遣す、同人来訪 木村霞

宿・由利源十郎^⑤・林三郎^⑥、御扶助長屋之事承る

関口弟^⑦ 小林祐三^⑧ 藤沢長太郎

廿一日 小出一出仕之事断申置

向山^黄村、二庫金書目御買揚之事頼む^④

廿二日

(1) 木村鏡子(熊二の妻)

(2) 明治三年十二月に渡米

(3) 向山黄村(静岡学問所頭・少参事・学校掛)

(4) 川村清雄(家達付二等家従)か

(5) 由利元(静岡勤番組頭並)

(6) 林惟純(開業方物産掛)

(7) 関口潜(隆吉の弟、のち静岡県出仕)

(8) 沼津病院製煉方

紺屋町御住居江參上 岡田俸米昨日渡之

廿三日

鷹皮紙紺屋町江進呈 人見勝太郎・関口・高^①

橋弥吉、大屋村江居住いたし度旨申聞る

福岡久、ブランドポムプ之事談す、近日出火日々ニ付て也

廿四日

松岡萬養子運九郎附属高橋真吉・村越惺

堂・山岡鉄太郎・高橋弥吉・小林祐三・由利源十郎、

御長屋之事談済 大山格之助着、尋問、聞く、岩^⑬

倉殿・大久保殿・木戸氏^⑭・川村氏御上阪、薩州江向

罷越と云、村田新八江戸詰出府と云 ○知事殿より

何ぞ御挨拶可然と云、浅野江申遣す

廿五日 自普請之者少々宛御手当決議

高橋弥吉、大屋村長屋建立可致旨談 代廿三兩

織田、村上俊五郎金子押貸妄行之旨申聞る

(9) 永峯弥吉(箱館降服人)

(10) 権少参事・水利路程掛・製塩方頭

(11) 松岡古道(水利路程掛・製塩方頭)

(12) 松岡古武(製塩方取締)

(13) 高橋真去(製塩方取締)

(14) 大山綱良(鹿兒島藩士)

(15) 岩倉具視(大納言)

(16) 大久保利通(参議)

(17) 木戸孝允(参議)

(18) 鹿兒島藩士

(19) 徳川家達

(20) 織田信重(権大参事・郡政掛)

(21) 村上政忠(遠江佐原村入植)

甚太郎江大屋
村質地代式
百兩渡す
当人長八

大山氏ニ聞く、上州
高寄一揆蜂
起藩士紛々、信
州松代同断
皆聚儉ニ興ると
○同人江知事殿
より相州秋広
短刀、服料五拾
兩御送り方取
計

廿六日

昨越⁽¹⁾老公より返書、米教師同断、長崎乾堂⁽³⁾来状、

日下薩藏江附返書也、梅太郎⁽⁴⁾丈夫之由申越

一翁⁽⁵⁾・松岡萬方江行く、山岡鉄太郎、人見勝太郎

廿七日

貫一郎、石野江紙遣す、一堂様⁽⁶⁾三千疋頂戴

石川渡江附、使部之者三百疋遣す、溝口江御預

御金之勘定書差出

廿八日

向山黄村、書籍御買揚代廿三両持参

溝口、知事殿⁽⁸⁾百両悴江被下置、浅野氏、阿部⁽⁹⁾

之手紙持参、金子三百両可遣旨相談、并妙見山勤

番頭江引渡、関口鉄三郎修行金之談す

廿九日

本日大晦

杉浦清介、由利元十郎⁽⁷⁾木村借用御長屋之事申越

(1) 松平慶永

(2) W・E・グリ

フィス

(3) 小曾根乾堂

(4) 海舟三男

(5) 大久保忠寛

(6) 徳川慶喜

(7) 石川利行(権

少参事・監正掛)

(8) 勝小鹿(海舟

長男)

(9) 阿部潜(少参

事・軍事掛、鹿兒島

招聘)

高知藩

津田具祐

明治四辛未

三好謙一より金子拾五両借用いたし度旨申越、拾両

用立 ○毛利総八郎江拾両用立

正月元日

二日

三日

四日

本日、旧臘滞京被差免候御書付到来

五日

小曾川彦千代国許江出立 竹村謹吾米行之内談、可然

と答 由利江、牧野銳吉郎人見江同居之事、高橋真

吉大屋村江住居之事等申遣す

六日

由利元十郎、久能山売家之事話談す 杉浦・

人見、幕内幡次郎同居之旨申聞る、且同人扶持方之

歎願 今井信郎 ○富田貞次郎が来状、刑部

(10) 毛利業広(米沢藩大参事)の子息、海舟食客

(11) 家達付家扶
(12) 牧野銳橘(忠毅、もと長岡藩知事)か

(13) 由利元(静岡勤番組頭並)

(14) もと遊撃隊士
(15) 箱館降服人、静岡藩預

(16) 山口藩士

省より留学被仰付候旨段々礼申越 ○平岡健書状⁽¹⁾

七日

小田切綱一郎 竹村謹吾已下、^米留学之心願申聞る

八日

柳原殿并村田新八殿・富田貞次郎・平岡健江一封

宛差出す、石川渡江頼む 山田虎次郎 人見勝太郎

溝口八十郎、竹村已下之心願御聞濟之様申談

亀井勇也

九日

竹村謹吾・川村、⁽⁷⁾外国行之願出可差出談す 木村霞宿、

由利元十郎方差遣す 林三郎、水沢之事頼み

由利八郎⁽⁹⁾元三岡⁽⁸⁾事来訪、国許江帰ると云、聞く、加州藩

三原清五郎者人物也と ○熊本平井怜、塾生ニ相成度

旨申聞る 佐々倉桐太郎 杉浦作十郎 木村霞宿、

百両拝借之旨申聞る^{致度}

(1) 柳原前光(外務大丞) 付属、外務省官吏

(2) 静岡学問所三等教授

(3) 柳原前光

(4) 鹿兒島藩士

(5) 山田政発(掛川勤番組頭)

(6) 溝口勝如(家達付家令)

(7) 川村清雄(家達付二等家従)

(8) 水沢主水(幹事役付属)

(9) 由利公正(もと会計官)

(10) 平塚恰(熊本藩士)

(11) 権少参事・水利路程頭

十日 浅野江水沢之事談す

薩生三人 浅野氏、国債之事外国留学之事

等談す 新見史雄、墓参明日出立之旨 中村⁽¹⁵⁾

敬太郎 佐々井息 矢口石斎

最上五郎・種田清右衛門、黒田了介ニ陪し廻船、四日

出帆之礼状 白戸⁽²⁰⁾、富田貞二郎頼山口藩江

仏式伝習者一兩人借用いたし度旨申越

十一日

溝口江浅野子息留学之事申遣す

十二日 福田半蔵江碑銘草稿遣す

越前中根新、家政改革之事相談 ○中村敬

太郎、米国留学之事内談、一翁江可談旨答

川村悴、留学御聞濟之礼 溝口氏、浅野子息

留学可致旨内決返答、浅野右之段申聞す

田村弘蔵、千両之御金塩浜江取掛り度此節申聞候旨

(13) 浅野氏祐(権大参事・政事庁掛)

(14) 静岡学問所教授世話心得

(15) 中村正直(静岡学問所一等教授)

(16) 佐々井栄太郎(半十郎の子息、開業方物産掛)

(17) 鹿兒島藩士

(18) 種子田清一(鹿兒島藩士)

(19) 黒田清隆(開拓次官)

(20) 白戸隆盛(明治四年に陸軍少佐)

(21) 浅野辰夫(氏祐の子息、沼津兵学校付属小学校生徒)

(22) 福田敬業

(23) 大久保忠寛

(24) 川村清雄

(25) 浜松勤番組頭

並 (26) 鹿兒島藩士、海軍操練所生徒

二付可然と返答

十三日

阿州松岡⁽⁴⁾ 毅⁽¹⁾、知事殿使として来る、医師之

事、藤沢長太郎借用之事等、藤沢并浅野江遣す

平井恰、学問所江入塾之事談す 浅野辰夫、留

学之礼申聞る

十四日

松岡康毅⁽³⁾明日出立之旨、徳島知事殿江返書

并書呈上^籍 中村より著述書到来

大垣藩堀敬衛 木村霞宿江糸代百両渡ス

小田切綱一郎

竹村謹吾・小野⁽⁴⁾ 明日東京江出立ニ付、柳原殿并

宮木鳴、松屋伊助江ワルス子江頼遣旨等之書状、

且八田知起之一封共頼む 戸田一夢

神保霞^{□□}江栖俸、明日召之旨礼 山岡鉄太郎

福岡藩
石田新六郎
安川敬一郎

(1) 蜂須賀茂韶

(徳島藩知事)

(2) 藤沢次謙(少

参事・軍事掛)

(3) 徳島藩士、の

ち司法省少判事

(4) 小野弥一(家

達付二等家従)

(5) 熊谷伊助

(ウォルシユ・ホー

ル商会番頭)

(6) トーマス・

ウォルシユ(アメリ

カ商人)

(7) 八田知紀(鹿

児島藩士、歌人)

御社江御祭典料
五百石下賜候事
日光山社家并
僧徒江一人前十
石宛被下置、但
僧徒当分之内
と云

十五日

藤沢長太郎 駒井竹所 関口鉄三郎

十六日

知事殿并紺屋町一堂殿江参上 村上俊五郎 石野

源吾 米国夕彼正月十五日附状到着

十七日

大久保江行く、東京にて暗殺之事有之と 杉浦清介

十八日

人見勝太郎七両遣す、困究之旨ニ付て也 服部江行く

木村香坪 薩州園田清吉夕扇子一本到来

十九日

杉浦清介 大久保止

廿日

戸田一夢 阿州小室信太夫・日比野克三夕状并

使藤田文策、医師借受度旨也

(8) 駒井朝温 (もと海軍奉行並)

(9) 徳川慶喜

(10) 村上政忠 (開墾御用)

(11) 石野正修 (小島勤番組世話役助)

(12) 大久保忠寛

(13) 正月九日に広沢真臣 (参議) が暗殺

(14) 服部常純 (大参事)

(15) 木村市左衛門 (静岡学問所御書学師範)

(16) 小島勤番組頭並

(17) 小室信夫 (徳島藩大参事)

(17) 小室信夫 (徳島藩大参事)

廿一日

浅野、日光山社人并僧徒之事被 仰出候由、関口詮^①
三郎修業料之談す 木村霞宿

中川表三郎^②

廿二日

大野信也、元竹腰藩令水本内人 関口潜三郎修
行被申渡 松平勘太郎^③ 村田新八滞留ニ付

尋問、聞く、薩大隅殿出府并西郷^④同断御受有之と云

廿三日

牧野田三、明日東京江出立之旨 伊藤伝藏^⑤

村田新八殿、国光之短刀知事殿より御送り相成

於花江五両、於信江壹両、牧野江託し一封遣す^⑥

廿四日

山岡氏 戸田九八郎 薩生三人暇乞

廿五日

(1) 関口潜(隆吉の弟)か

(2) 中川長五郎(もと砲兵隊差図役)

(3) 松平信敏(少参事・政事庁掛)

(4) 島津久光(5) 西郷隆盛(鹿兒島藩大参事)

(6) 牧野成行(権少参事・監正掛)

(7) 海舟の妹

薩
堀与八郎
松形蘇助
吉水左一郎

川田熙、弟之事頼む 人見勝太郎

廿六日

酒井閑亭 松平与六郎、養左門入塾之事

頼ミ、即刻向山江談す 大久保江尋問

伊藤伝藏悴死去ニ付拾両遣す

廿八日 中村敬太郎

松平三郎入校ニ付引受之書付遣す 河野左門

杉浦清介 松平勘太郎 溝口八十郎

山岡江中川表表五郎尾州江可遣旨申遣す

廿九日

宮田文吉、昨秋嵐ニ付修覆御立替之分十兩一分

返納 浅野氏 木村霞宿 福岡書生大西・平間

名倉・片山 元新徴組三人七両遣す

晦日

多賀尚彦、銅板之話す 西野三郎、五両遣す

(8) 河田熙(少参事・学校掛)

(9) 河田然(熙の養子、四月に静岡学問所世話心得)か

(10) 酒井忠績(もと姫路藩主)

(11) 向山黄村(静岡学問所頭・少参事・学校掛)

(12) 河野通和(権大参事・会計掛)

(13) 宮田正之(権大参事・会計掛)

(14) 名倉知彰(静岡病院病院頭並)

(15) 片山直人(静岡病院で医学修行)

(16) 箱館脱走人

(17) 中条景昭付属、水戸出身

石野江借す

通鑑綱目不残

英書一本

荒内江

国語宣ギ六

左氏伝

水戸藩

河西辰次郎

松延喜彦

二月朔日

石野源吾、通鑑借用いたし度旨申聞る

石野江正二両月分月俸六両遣す 山岡、尾州江中

長 川表五郎遣す積決す ○多賀今日帰郷之旨暇乞

竹村・大久保兩人帰郷、ウォルス方にて留学之万事受合

候旨松屋伊助厚く周旋之趣也、宮木を返書来る

溝口江ワルス并松屋江遣し候物之事談

二日 宮田・小沢を両月分式百五十両差越す

大久保を、岩倉殿御昼休可罷出旨申来候由申越

本多鷹之進 松平三郎、入校之礼 ○浅野氏 山岡

氏 中川長五郎尾州江遣す、青山江一封認旅費

拾両遣す

三日

岩倉御通過、知事殿御逢、都合宜敷旨也

中村啓太郎江訪ふ

(1) 石野正修（小島勤番組世話役助）

(2) 山岡鉄太郎（権大参事・藩政補翼）

(3) 竹村謹吾（家達付家扶）

(4) 大久保三郎（忠寛の子息、家達付二等家従）

(5) 宮田正之

(6) 岩倉具視（議定）

(7) 青山魁次郎（名古屋藩士）

(8) 徳川家達

(9) 中村正直

宮田江附シ、俸金之内式百兩木村⁽¹⁰⁾・大木美留学
料として差引呉候様申談、八十五兩納返す、
但五ヶ月分也

四日

立田政吉郎⁽¹¹⁾ 松岡万⁽¹²⁾ 山本恭斎⁽¹³⁾ 梅沢孫太郎、水
府人入塾之事頼む、断申延

白戸真砂⁽¹⁴⁾、明日大坂江出立ニ付川村江一封認

五日

戸川氏⁽¹⁵⁾ 水戸藩士 向村江^(山カ)入校之事

申遣す ○藤沢江行く⁽¹⁶⁾ 多賀隠居洋画一

葉借遣す

六日 宮田⁽¹⁷⁾八十三兩之受取 東京牧野⁽¹⁸⁾の届物受取

溝口、御刀之事相談、古代之太刀借遣す

男谷勝三郎⁽¹⁹⁾ 人見勝太郎⁽²⁰⁾ 賀母宮甚十郎⁽²¹⁾ 杉浦

清介 ○松平春嶽公より来翰

(10) 木村熊二・大儀見元一郎(明治三年十二月に渡米)

(11) 開業方物産掛
(12) 松岡古道(製塩方頭)

(13) 慶喜付家令・もと水戸藩士

(14) 白戸隆盛(明治四年に陸軍少佐)

(15) 戸川安愛(権大参事・公用掛)

(16) 多賀春帆(上総、もと銃隊頭)

(17) 牧野成行(権少参事・監正掛)

(18) 権少参事・郡政掛

(19) 加茂宮直正(伝二郎、明治二年当時

は小島勤番組)

(20) 杉浦赤城(沼津兵学校三等教授並)

七日

大久保・服部江行く 村上肇

八日

人見勝太郎 ○浅野江大屋村建家江勤番組

可入旨談す 竹村謹吾、明後日出立之旨

伊藤健三郎、修業所勤番江出役之事談す

九日

竹村・大久保・浅野、明日東京江出立米国行ニ付、松や

伊助并ワルス氏江端物礼状并米国悻方江白紹

二反・書状等附託す 佐々倉桐太郎 塚本桓輔

妻木・松平江行く、伊藤健三郎之談す

十日

多田為之助 男谷勝三郎

筑波小次郎、川田佐久馬之使、會計ニ長候者鳥取

藩六七名借用之事申越

福岡

立花増枝

尾嵯麻三郎

加藤堅武

外

式人

(1) 勝小鹿(海舟長男)

(2) 権少参事・水利路程掛

(3) 塚本明毅(沼津兵学校頭取)

(4) 妻木頼矩(権大参事・公用掛)

(5) 松平信敏

(6) もと遊撃隊士

(7) 河田景与(鳥取藩士、弾正大忠)

十一日

宮田江頼、東京江届物遣す、於花江三両、お信江一両、

春嶽殿并高木之書状、富田(9)福沢江之書状等頼む

大野信也、竹腰老侯より伝言、一封を附遣す

大垣藩 妻木(11)頼候墓碑銘差越

十二日

山本江行き墓碑銘認方頼む 新見史雄本返シ

八田起知(7) 中金(13)穰平より書状

十三日

妻木務、近々出勤之旨申聞る、本通五丁目住宅

十四日

信太歌之助商法之事ニ付木下十之介手紙持参

人見勝太郎 山本眠雲江墓碑銘頼む

十五日

矢田堀婦六、明日東京江出立之旨 測辺(18)

(8) 高木三郎 (大泉藩士、アメリカ留学中)

(9) 富田鉄之助

(10) 福沢諭吉か (仙台藩士、アメリカ留学中)

(11) 竹腰正富 (もと名古屋藩付家老)

(12) 静岡学問所教授世話心得

(13) 中金正衡 (もと中津藩家老、明治五年に左院議官)

(14) もと歩兵差図

役

(15) 福井藩士

(16) 山本堯直 (静岡学問所五等教授)

(17) 矢田堀鴻 (権少参事・軍事掛)

(18) 権少参事・郡政掛

海野寛一郎

佐土原尼玉

章助ゝ来

状

中村藩相馬

八景又六

塾江参り度

旨申聞る

徳藏、杉浦清介沼津之教授ニ相成候旨也

相原安二郎、梅ヶ島御林伐木事務之左衛門願

御許容之様談す 篠崎親(3)

十六日

溝口八十郎、古代之太刀差上候返礼、金札御下ケ

人見江五両、永峰江廿三両渡す(4)

十七日

八田知起江一封差出、松平勤太郎江頼ム 国債二分三朱

差出ス 松平三郎 伊東健三郎

十八日

疋田今日東京江出立 人見江大屋長屋代二十五両

普請代三拾六両壹分之所江六拾貳両渡す

浅野次郎八 服部之伴江年百五十両被遣(5)

之事決すと申越 多賀隠居 松浦作十郎

一翁江梅ヶ島金山堀方之相談

(1) 権少参事・郡

政掛・開墾方頭取

(2) 白鳥惣左衛門

(安倍郡門屋村名

主)

(3) 篠崎正親(静

岡学問所の習字教

師)

(4) 永峰弥吉(箱

館脱走人)

(5) 伴門五郎(上

野戦争で戦死)の養

子銘五郎か

松山藩三人

延岡

大平彦六

熊本藩

下山群太

光永真次

小山政蔵

竹寄熊太

十九日

川田熙、林又三郎之事内談、弟之事同断、⁽⁵⁾ ○杉浦

清介江五両遣す 妻木本日出立、知行所江参候由

大岡鉄太郎

廿日

惣左衛門・梅ヶ島組頭式人、金堀之談し一翁江

遣す

廿一日 櫛原保次之書状肥後生を受取置、関口潜あて也⁽⁷⁾

惣左衛門江金堀代之内式百両渡す 溝口八十郎、

金山之事談承知 由利元十郎⁽⁸⁾ 信田歌

之助 河越山田敬之 越前木下十之介江書状認

遣す

廿二日 溝口を三百両差越、是者梅ヶ島金山之手当也

新見史雄 丹羽淳太郎⁽⁹⁾、書生差遣度

旨頼置 大垣藩

(5) 林学斎 (小島

勤番組頭)

(6) 河田休

(7) 隆吉の弟、のち静岡県出仕

(8) 由利元 (静岡勤番組頭並)

(9) 丹羽賢 (名古屋藩大参事)

廿三日

大久保・浅野江行く、金山之事談す 向山黄村

廿四日

林三郎、斗南極困究ニ付梶原平馬・上田

典次当藩江無心として罷越候旨 瀧村小太郎

越前中根新、知事殿東下供也と云

木村芥舟の来状

廿五日

浅野氏、留守ニ付面会なし 西大平藩、向山江一封、

入校之事頼遣す

廿六日 終日大雨

山高貫一・間宮幸次郎・賀茂宮伝二郎、大屋長

屋江入度旨申聞る

廿七日

山岡并松平勘太郎

(1) 林惟純(開業
方物産掛)

(2) 滝村鶴雄(家
達付家扶)

(3) 松平茂昭(福
井藩知事)

(4) 木村喜毅(も
と海軍所頭取)

(5) (6) 山高貫
一郎・加茂宮直正
(集学所)

小田原藩
大久保潔

廿八日

大久保一翁、本日小鹿江引移出掛立寄

水府七八人・梅沢孫太郎

廿九日

溝口江一翁御手当之事談す

晦日

甚太郎江式百両渡す

山岡鉄太郎 笠間藩 岩村藩

三月朔日

戸川平太⁽⁶⁾、先日差出置候八十五両返し候間先受取置

駒井竹所⁽⁷⁾・神保霞栖、地所之事相談

二日

太田忠二郎、杉浦之手紙持参、入塾得と心掛度旨也

多田為之助、人見江同居いたし度旨聞届置

向山江行く、藤沢江同断⁽⁸⁾

三日

(6) 戸川安愛

(7) 駒井朝温(もと海軍奉行並)

(8) 藤沢次謙(少参事・軍事掛)

大野脩蔵

宇都宮藩

戸田絹治

四日

八田知起より来状

甚太郎、本日国許江出立、多年勤候ニ付八両遣す

山岡鉄太郎 人見・和田勝太郎帰郷 多賀

片山

五日

西野三郎、三両遣す

六日

戸川江和田御手当之事、多田為之助今一人之事同断

七日

梶原景尾・上田伝次両度来ル、斗南藩金

子無心之事申聞る

高田伊藤道頭、大垣藩、近々国許江出立

之旨暇乞 木村霞式^宿、東京江出立と云

藤沢長太郎

(1) 和田勝正(明治二年当時は掛川奉行二等勤番)

(2) 中条景昭付属、水戸出身

(3) 梶原景雄(平馬、斗南藩士)
(4) 斗南藩士

八日

斗南藩兩人金子無心之事談す 瀧村小太郎、

当日竹村初七人出帆、ワルス并松屋厚世話相成候

旨書状、并駒井・神保地所之事 榊原来る、帰着之事云

浅野江斗南藩之事、川々普請国役之事、其他談す

九日

中村敬太郎⁽⁹⁾

貫一郎入校ニ付石野江端物遣す 石野源吾⁽¹⁰⁾

十日

甚太郎同道、榊原三男 溝口八十郎⁽¹¹⁾

向山江榊原三男学校出席之事頼む

紺屋町御住居江参上

十一日

溝口八十郎 森川久右衛門老人 山田忠太郎

向山江一封認遣す 立田政吉郎⁽¹²⁾

十二日

(5) 竹村謹吾(家
達付家扶)

(6) トーマス・
ウォルシュ(アメリ
カ商人)

(7) 熊谷伊助(ウォ
ルシュ・ホール商会
番頭)

(8) 浅野氏祐(權
大参事・政事庁掛)

(9) 中村正直(靜
岡学問所一等教授)

(10) 石野正修(小
島勤番組世話役助)

(11) 溝口勝如(家
達付家令)

(12) 開業方物産掛

成海歳太郎

太田忠二郎、入校可致旨申聞る 溝口江勘定書

持参相渡す 立田政吉郎 伊藤安兵衛

越前福井藩御雇米人江写真・白絹一反、⁽¹⁾村田巳三郎

江一封、同藩飛脚江頼ミ遣す

十三日 兼忠夫婦来る

川村帰元、清雄父、留学之礼、名倉弥五郎同断

太田忠二郎、式両渡す 服部江行く 飯塚廉

作、弟之事申聞け懇願

十四日

松岡萬 確堂并弟

十五日

太田忠二郎江拾両遣す 松平勘太郎、久留島知事

自分方江 弟入塾藩庁江頼来候旨 向山黄村

ウォルス氏并松田屋伊助江瀬戸物・反物等遣す

米国より松蔵帰国ニ附シラルコール遣す

(1) W・E・グリー
フェイス

(2) 村田氏寿(福
井藩大参事)

(3) もと徒頭

(4) 家達付二等家
従

(5) 名倉知彰(静
岡病院三等医師)

(6) 服部常純(大
参事)

(7) 飯塚年整(掛
川小学校教授、明治
四年に刑部省史生)

(8) 飯塚十松(明
治三年にアメリカ留
学)

(9) 松岡古道(水
利路程掛・製塩方
頭)

(10) 松平斉民(も
と津山藩主)

(11) 松平信敏(少
参事・政事庁掛)

(12) 久留島通簡
(森藩知事久留島通
靖の弟)

(13) 出島松造(出
島竹斎の子息)か

十六日

人見・和田、車被返候度旨申聞可然と云 松平三郎、中村敬介方江入塾いたし度趣

藤沢江行く、米沢藩沼津江入校いたし度旨申越候間、

同人江談置 信田歌之助(14)来状

十七日

浅野江人見之事、和田荷車之事、米国留学私ニ行

きたる者所置之事等談す 山本眠雲(15)

十八日

松平三郎退寮、頭取江一封遣す 服部江行く

十九日

由利元十郎、剣術入費之事相願(16)

廿日 佐々井半十郎(17)

太田源三郎、松屋伊助之手紙持参、福井藩江(18)

被雇候旨、御印章頂き度由申聞

役 (14) もと歩兵差図

(15) 山本堯直(静岡
岡学問所五等教授)

(16) 由利元(静岡
勤番組頭)

(17) 明治二年当時は府中奉行支配割付
(18) 太田資政(もと
と横浜英学所教師、
英語教師として福井
藩御雇)

橋爪江拾兩
遣す

橋爪正一郎、大泉藩⁽²⁾高木留学雜費立替之内
式百兩并岡田斐雄書状持参、二男入校いたし居
候小遣之事受取遣す

浅野、由利願之劍術入費式百兩増之事、橋爪
之転末、太田源三郎御印章之事談す

海外視察之者入費之相談有之候、并関口之事等

廿一日

服部 山岡同道にて相原江尋ぬ 太田源

三郎江附シ、越前村田巳三郎江一封差出す

廿二日

対州藩某

服部、地代金并屋敷払代書付参る 鷹匠町

六百三拾坪払下ケ代拾一兩一分三朱永三文三分

百坪ニ付壹兩三分永六百六十六文

壹ヶ年地税式兩一分永百十二文五分⁽⁵⁾百坪ニ付
壹分二朱

田付右膳 人見・永峯⁽⁶⁾、同人東京行之事申聞

(1) 橋爪正英(権少属)

(2) 高木三郎(アメリカ留学中)

(3) 大泉(庄内藩士)

(4) 相原安次郎(開墾方頭取)

(5) 田付直愛(静岡勤番組世話役頭取)

(6) 永峰弥吉(箱館脱走人)

近衛殿内

源一匡

有栖川家

土山讓

大垣藩

岸本精一郎

大橋新吉

肥後之布留庄

脱来、困進候事

頼む、断、通行・潜

居候事者勝手次第

と云

(付箋)

「布留庄突然来訪、

月日当人申日とは相

違、三月廿五日ニは

無之」

棚倉藩

中根市松

廿三日

橋爪正一郎、明後日帰京之旨 太田忠二郎、

今日より長田方江入塾 松平三郎

廿四日

土山・源両氏難渋之旨申聞、五両遣す 多賀隠居、

悴人見方江遣度旨申聞 堀小四郎

布留正湯治江赴き度ニ付梅ヶ島江遣す

石川孝蔵 小田切鋼一郎

廿五日

多田為之助、東京行之事申聞

戸川氏地代金十一両壹分余、税金二両壹分ヨ、

多田江届方頼む

廿六日

長田珪太郎洋行之事申聞、林三郎江橋爪二男

之小遣六両預ケ遣す、塚本桓輔小学校之事申聞、

江原素六洋行ニ付長田同道之事申聞、宜敷旨

(7) 長田珪太郎 静岡
岡学問所二等教授)

(8) 多賀春帆 (上
総、もと銃隊頭)

(9) 堀利孟 (十勝
詰開業方頭取)

(10) 古荘嘉門 (熊
本藩士)

(11) 静岡学問所三
等教授

(12) 塚本明毅 (沼
津兵学校頭取)

答、浅野江右等内話

服部綾雄、炮発之事、體操之事等相談

廿七日

松平勘太郎、體操場所之事、劍術入費之事、浅野

口上申聞 伊筑四郎江長田之事申遣

岸本精一郎江津田真一郎迄一封認遣す

廿八日

福岡藩兩人 長田珪太郎洋行之礼

廿九日

藤田一郎 人見・和田車代十五兩普請料

廿兩并幕内⁽³⁾・多田之月俸渡す

小田切江行キ海野貫一月俸三兩渡す

浅野・服部・戸川江劍術之事、藤田・太田修行之事、古

正之事等内談

四月朔日

海野貫一郎

(1) 大垣藩士
(2) 津田真道 (刑部中判事)

(3) 幕内幡次郎・多田為之助 (もと遊撃隊士)

謗論家
論說承状

新谷藩
中泉果

薩藩
坂元鄭介
大垣藩
田村丘八
外一人

明治四年四月朔日～五日

水戸藩兩人 和田貞二郎・勝三郎 大久保止江一封認遣す
由利元十郎劍術世話心得之姓名書持参 向山江行く、藤田
一郎之事談す 塚本・相原、明後出立之旨申置

二日 向山江藤田

相原・山岡江行く 中條金藏・山岡来訪

長田珪太郎

三日 紺屋町々鳥被下

藤田一郎 平塚恰 太田忠次郎 浅野、藤田

并外屯人修行之事其他相談

四日

今井太郎

片山弥二郎 林三郎 向山江行キ藤田并其他

之事相談 和田助三郎

五日

片山弥二郎、三拾両用立 惣左衛門、知事殿梅ケ

島見廻之事談す

(4) 横須賀勤番組
之頭並

(5) 向山黄村(静
岡学問所頭・少参
事・学校掛)

(6) 中条景昭(開
墾掛頭)か

(7) 熊本藩士

(8) 東京修行人

(9) 和田助三郎(も
と遊撃隊士)

(10) 白鳥惣左衛門

(11) 徳川家達

六日

溝口氏⁽¹⁾ 今井一郎昨日退寮、中從藏⁽²⁾

方罷居候旨申聞

七日

藤田一郎江修行料六兩渡す

浅野江今井修行之事申遣、同人今日修行被

申渡、明日出立ニ付加藤行藏江一封認渡す

戸川⁽³⁾、十日出立暇乞、五拾兩預り置但太田已下修行料也

八日

松平勘太郎 石野源吾⁽⁴⁾ 今井太郎親宗作

竹腰豫堂来翰

九日

榎沢鉄太郎、薩州へ帰候ニ付来る 和田助三郎

人見⁽⁷⁾、妻迎候ニ付五兩遣す 原某矢口江行く

十日

原弥十郎十五日頃出立と云 白戸石介⁽⁹⁾ 太田忠

(1) 溝口勝如(家達付家令)

(2) 静岡学問所学校勤務方

(3) 戸川安愛(権大参事・公用掛)

(4) 石野正修(小島勤番組世話役助)

(5) 竹腰正富(もと尾張藩付家老)

(6) 梅沢鉄三郎(敏もと遊撃隊士)

(7) 人見寧(もと遊撃隊士)

(8) 矢口謙斎(もと昌平齋頭取、明治三年に有渡郡下足洗村で私塾開設)か

(9) 白戸隆盛(明治四年に陸軍少佐)

次郎修行料六兩渡す

十一日

福井

沢木左弥太

山本庄右衛門、豆州江明日出立之旨 福井藩村

山口藩

熊谷十一郎

田巳三郎の来状 斎藤金平親隠居

十二日

外山捨八親、当正月廿五日米利堅着之来状到り

候旨申聞 梅沢鉄太郎

十三日

浅野、村上乱妨之事内話、切腹或者入牢可然与云

豊岡藩
堀遥

林三郎 夏目甚五

十四日 松浦与四郎の伊筑江之手紙届候旨申越

金沢

久島彦二郎

小幡造次

激論家

説論す

浜口成則 津田又太郎、日坂二而病氣二付

尋問之旨申聞 修助、お亀手紙持参、金子

遣す 吉光十七日東京江出立と云

松岡萬外附属三人、金谷宿困究歎願之事談す

(10) 外山正一(アメリカ留学中)

(11) 村上政忠(俊五郎、開墾御用)

(12) 松岡古道(製塩方頭)

十五日

山岡・男谷、村上之事承之 和田助三郎、十八兩

遣す 桜井甫春 小花和隠居

十六日

服部氏⁽¹⁾

十七日

十八日 水沢宗太郎、国許へ帰

神保霞栖 長谷川涛雲

十九日

浜口成則、同人江頼ミ吉原方江七拾兩送る

廿日

廿一日

大垣藩

廿二日

和田助三郎江印章一枚渡す、廿五日出立之旨也 依田

丹波

吉田伊豆水

大雨忽七十三度

此五四日は温度
八四五度也

(1) 服部常純(天
参事・軍事掛)

手塚久野
同 啓一郎
日光附属
帰参願

小浜藩
縣勇三
折井孫太郎
石野三一郎

全翁手紙、塩入藤太郎持参 布施金弥⁽²⁾

下山良太郎 吉田伊豆水江六両遣す⁽³⁾

廿三日

堀遥 大艸多氣二郎 米を来状、木村・大儀之事申越⁽⁴⁾

廿四日

世良松橘、聞く、去廿一日薩州之知事殿出府と云⁽⁶⁾

廿五日

世良、晴天次第出立と申越

廿六日

妻木務、一昨日帰郷之旨⁽⁷⁾

吉水才一郎、明日出京と云 高木外巻人之米国を差⁽⁸⁾

越候書状大泉藩江届方頼む 向山黄村

平田平之進を来状、来仲旬之頃洋行と云、当⁽¹⁰⁾

廿一日薩知事殿・西郷殿出京之旨申越⁽¹¹⁾

廿七日

(2) 布施讓（静岡学問所五等教授）

(3) 明治二年当時は二等更番組

(4) 大草高重（開墾掛頭並）

(5) 木村熊二・大儀見元一郎（アメリカ留学中）

(6) 島津忠義

(7) 妻木頼矩（権大参事・公用掛）

(8) 鹿兒島藩士

(9) 高木三郎（アメリカ留学中）

(10) 寺田弘（鹿兒島藩士）

(11) 西郷隆盛（鹿兒島藩大参事）

溝口、夏目甚五之事頼む 川村江一封認渡す

山岡 男谷 松平勘太郎

廿八日

木村霞宿 林三郎 織田氏⁽¹⁾

廿九日

浅野氏、海上⁽²⁾一造修行之事頼む

森藩知事弟、同居修行いたし度旨頼⁽³⁾

晦日

藤田・太田修行料六両宛渡す 柳河藩二而

英学者雇度旨申聞 兵頭大八郎外壻人

五月朔日

太田・海野、同人江月俸三両渡す

加藤平内⁽⁴⁾

二日

堀澄人、英学者無之旨を以て雇之所断

(1) 織田信重(権大参事・郡政掛)

(2) 海上胤範(明治二年当時は中泉奉行支配割付、のち東京修行人)

(3) 久留島通簡(森藩知事久留島通靖の弟)

(4) 加藤泰壮(旧幕脱走兵、静岡居住)

三日

人見・梅沢・和田・幕内・多田之月俸式両宛渡す

小林祐三

四日

溝口云、貴志日光の帰郷、御宮如旧参拜人六七百

人計り、大低士民所を得たり、三千両を社附

之者等江遣大悦と云、右等之礼、溝口氏之申聞

加藤平内

五日

溝口の山岡其他江渡す金札式百両差越

肥後藩 松代藩、佐久間恪之書状持参

山本眠雲

六日

橋爪貞次郎、養子之口有之ニ付出京いたし度旨ニ付

金三両す 肥後藩

(5) 人見寧・梅沢

敏・和田助三郎・幕内幡次郎・多田為之助(もと遊撃隊士)

(6) 沼津病院製煉

方

(7) 貴志忠孝(家達付家扶)か

(8) 山岡鉄太郎

(9) 佐久間恪次郎(象山の子息)

(10) 山本堯直(静岡学問所五等教授)

(11) 橋爪正英(権少属)の次男

火消

石山道雄

浅野志賀太郎

伊素精一郎

七日

立田革々佐久間之浄稿二冊預り、中村江遣候分也

酒井閑亭、姫路の年々幸五郎兩人江二百俵宛

送り候旨、如何いたし可申哉相談、可然と云

藤沢長太郎 尾州中川長五郎の一封使差越、

大岡家不宜敷旨也 海上一造、小島ニ而修行

聞濟之旨申聞 消防方某浜松世話役助

八日

神山、修行致度ニ付山岡江遣す 浅野志賀

山岡氏 土山讓 山岡江百両渡す

九日

土山 浅野江海上一造修行之事、大屋村

塾ニ立置候事、其外相談、向山江も相談

安場一平、東京之話有之、横井 病死ヲ聞

十日

肥後
徳富太多七

(1) 佐久間象山
(2) 中村正直(静岡学問所一等教授)

(3) 酒井忠績(もと姫路藩主)

(4) 酒井忠悼(同右)

(5) 藤沢次謙(少参事・軍事掛)

(6) もと砲兵隊差図役、名古屋藩御貸人

(7) 海上嵐範

(8) 有栖川宮家士

(9) 浅野氏祐(権大参事・政事庁掛)

(10) 向山黄村(静岡学問所頭・少参事・学校掛)

(11) 安場保和(熊本藩少参事)

(12) 横井大平(小楠の甥、明治四年二月三日に死去)

(13) 徳富一敬(熊本藩惣庄屋、蘇峰・蘆花の父)

浅野江、徳富藩江参候儀申遣候 岸本誠一郎⁽¹⁴⁾

津田真一郎之手持持参云、朝鮮江米国船五

隻参候所発砲、直ニ台場打潰され候旨、上海

新 伊素精一郎、明日尾州出立之旨

平塚恰、越前江参候旨ニ而立寄

山岡江行く

十一日

惣左衛門江梅ヶ島江渡す金子百両渡す ○神保・

駒井両隠居 服部江尋ぬ

十二日

安場・徳富、明日出立之旨也 山岡 人見 梅沢

十三日

川村隠居・大久保之伴米国ニ而世話いたし候礼

海上二造修行被仰候旨礼、浅野氏

十四日

温

九十四度

高田藩

渡辺健蔵

(14) 大垣藩士

(15) 津田真道(刑部中判事・外務権大丞)

(16) 熊本藩士

(17) 白鳥惣左衛門(安倍郡門屋村名主)

(18) 駒井竹所(朝温、もと海軍奉行並)

(19) 服部常純(大参事・軍事掛)

(20) 川村帰元(清雄の父)

(21) 大久保忠寛

(22) 川村清雄・大久保三郎

今和泉
四本隼太

十五日

海上江赤松大三郎江之一封認遣す 岡部丹陵、
東京江参り度旨申聞 井上八郎、堀割之事
不都合之趣にて参岡と云、田村之事談す

梅沢、大屋村学校名前之事談す 渡辺健蔵

薩藩士四本隼多、昨三月同藩出丸内

操と申者江五拾両於国許用立、此度探索いたし

候事、何分不相知旅用等必死と差支候旨ニ付五拾

両用立遣す 橋爪正一郎

十六日

服部、同人江集学所之事等并四本生之転末

談す 石野源吾 木村熊二妻、川田江為

替金之事申越候旨申聞 鈴木半蔵明日

東京江出立、大蔵省を被 召たりと云

服部より大屋村之事承知之旨、且四本江用立

(1) 赤松則良(海軍兵学校大教授)

(2) 井上清虎(浜松・中泉勤番組之頭)

(3) 田村弘蔵(浜松勤番組之頭並)

(4) 渡部健蔵(高田藩漢学者)

(5) 橋爪正英(権少属)

(6) 石野正修(小島勤番組世話役助)

(7) 木村鏡子

(8) 河田熙(少参事・学校掛)

(9) 鈴木半造(公用掛公用方下役)

山口藩
新山正輔

候五拾両差越す

十七日

川村権七、昨着之旨、内情申聞

下山逢吉、飯塚之書状持参 岡部廿日頃

出立と云 吉光才一郎東京へ帰り、村田・

海江田之伝言

十八日 昨夜雨、頃日晴天大暑八十五六度已上也、一雨冷

塚本桓輔 松岡萬・同運九郎・田中

十九日

松平勘太郎、小川邸中之明坐敷田安殿江讓候事

○林三郎、明後東京江出立三付吉兵衛江暮シ金五

拾両届方頼む 下山良太郎、蘭江修行願書認遣

溝口、知事様甲金拾并金子戴く、五百両也

廿日

川村権七、明朝出立三付武内江一封頼む

(10) 下山一敬(監正掛権少属)

(11) 村田新八(鹿兒島藩士)

(12) 海江田信義(奈良県知事)

(13) 塚本明毅(沼津兵学校頭取)

(14) 松岡古道(製塩方頭)

(15) 松岡古武(製塩方取締)

(16) 田中栄次郎(製塩方諸掛)か

(17) 松平信敏(少参事・政事庁掛)

(18) 徳川慶頼

(19) 林惟純(開業方物産掛)

(20) 明治二年当時は二等更番組

(21) 蘭鑑(静岡学問所二等教授)

(22) 徳川家達
(23) 武内孫介(和歌山藩士)か

廿一日

松岡萬、下村川並堀割之事話す

廿二日

山岡 中島理八ニ而同役者人 人見勝太郎

廿三日

今井太郎南校江入校之旨、親々礼状

海江田武次来訪 山岡 永井 大川正二郎

乙骨太郎乙

廿四日

向山黄村 小田切鋼一郎 下山逢吉 牧野田三

吉水才一郎 福井藩村田々来状

廿五日

福井藩堤五一郎、米国グリユービス氏江教師之事

聞合せ方頼む 松平三郎、明日帰郷之暇乞

廿六日

佐々井半十郎、唐製之茶覚候旨申聞

金沢藩
兩人

(1) 静岡藩会計方

(2) 東京修行人

(3) 大川矩文(箱館降服人)

(4) 沼津兵学校一等教授、静岡学問所英学教授

(5) 静岡学問所三等教授

(6) 牧野成行(権少参事・監正掛)

(7) 村田氏寿(福井藩大参事)

(8) 堤正誼(福井藩権大参事)

(9) W・E・グリフイス

(10) 明治二年當時は府中奉行支配割付

廿七日

笹間唯勇、太田某之事承之、海上一造之手

紙持参

廿八日

太田・藤田江六月分六両宛渡 海野江三両

名護屋青山魁二郎の書状、伊素精一郎持参

山岡

廿九日

浅野氏 梅沢 柳河藩両人 下山良太郎

晦日

彦根
福永干城

柳河藩英学者頼度旨、服部・藤沢江一封認

遣す 阿部潜⁽¹¹⁾ 藤田一郎

由利八郎の来状、建白艸稿差越す 確堂⁽¹²⁾

殿・春嶽殿江商法之事ニ付一封呈す

米国外山・木村・大儀見の来状⁽¹⁴⁾

(11) 少参事・軍事

掛、鹿兒島招聘

(12) 由利公正 (福

井藩出仕)

(13) 松平齐民 (も

と津山藩主)

(14) 外山正一・木

村熊二・大儀見元一

郎 (アメリカ留学中)

六月朔日 幕内・多田江月俸四両渡す

人見・梅沢江百両渡す、普請料也 名護屋

青山魁二郎 妻木江五両渡す⁽¹⁾

下山良太郎江半年分月俸十式両渡す

乙骨太郎乙

二日

甚太郎江属し布施金弥江⁽²⁾ 聖寺被下金二百両^(大正)

遣す 水沢⁽⁴⁾、三田喜六七日頃出府と云⁽⁵⁾

三日

青山魁二郎 布施金弥、人力車之事并大正寺

僧之事等談す、大正寺禅堂献納济被下遣候

旨也 ○人見・梅沢江五拾両、書物代渡す

松浦祐助 浅野江行き種々談す

四日

大久保止⁽⁶⁾ 阿部潜、身上之事談す

小浜藩

(1) 妻木頼矩(権大参事・公用掛)

(2) 出島竹斎(小鹿村名主)

(3) 布施讓(静岡学問所五等教授)

(4) 水沢主水(藩政補翼付属)

(5) 三田箕籠(静岡学問所三等教授)

(6) 小島勤番組頭 並

五日

近藤熊太郎 阿部潜

六日

山田虎二郎 中根造酒二郎 浅野江阿部之

事申遣候

七日

溝口江文台為持遣す 阿部潜

八日

服部氏、六月と九月迄之俸金百三十三兩

壹分受取 和助三郎 由利元十郎

九日

大聖寺所化趣意申聞ケ候ニ付説諭す

桜井秀雄

十日

田付右膳 橋爪貞二郎、親之方出来たりと云

(7) 近藤敬明(中泉学校教授方頭取並)

(8) 山田政発(掛川勤番組之頭)

(9) 中根淑(沼津兵学校三等教授)

(10) 溝口勝如(家達付家令)

(11) 由利元(静岡勤番組之頭並)

(12) 赤坂勤番組之頭

(13) 田付直愛(静岡勤番世話役頭取)

(14) 橋爪正英(権少属)の次男

弘前藩
原準造

名護屋
小笠原
陸軍少佐
山上権大属

高田藩
兩人
大聖寺ハ
老人

高田藩
福富札

十一日 九十度

阿部潜、明日頃出立ニ付伊集院江一封、蓮池
之事認遣す 山本眠雲

十二日

中村敬太郎、象山先生之遺稿不残渡す
原準造 加藤平造、明後日東京江出立と云

十三日 富士母江八両遣す

甚太郎、松造⁽¹⁾牧牛被 仰付たりと云 和田助三
郎

十四日 溝口 知事様⁽²⁾今五百両参る

海野 太田 ○織田泉之⁽³⁾ 笹間唯男

田中東四郎、身分之事談す 塩入藤太郎⁽⁴⁾

松浦祐助 正太江拾五両、平兵衛江廿両渡す

十五日

浅野氏、山岡江米渡之事、牧牛之事等談

(1) 出島竹斎(甚太郎)の子息(のち開拓使御用掛)

(2) 徳川家達

(3) 織田信重(権大参事・郡政掛)

(4) 静岡勤番組三等勤番

桜井江金子用立之事 林三郎江橋爪二男之身

上申遣す ○越⁽⁵⁾前米教師の吾藩雇人

可然者有之早々否申遣候様申越す、浅野江

右等談す

十六日

甚太郎江大聖寺事骨折ニ付二千疋遣す

桜井江五百両用立 室賀竹堂⁽⁶⁾

十七日

紺屋町御隠居の御尋物被下⁽⁷⁾

多賀隠居 惣左衛門⁽⁸⁾

十八日

福岡藩其他兩人 吉光 桑名藩 藤田一郎

○越前クリューフス江返答并答書等差出

大正寺聖人弟子之事内話、禅堂献納ニ付

被下物之礼 桜井秀雄 吉光

十九日

(5) W・E・グリ
フェイス

(6) 室賀正容 (慶
喜付家令)

(7) 徳川慶喜

(8) 多賀春帆 (上
総・もと銃隊頭)

(9) 白鳥惣左衛門

十日已来
一点之雨
なし、日々炎
熱

神保隠居 小田切綱一郎

廿日

廿一日 溝口(5)三百兩預り

松造帰港二付、外山捨八・小鹿方江一封頼む(1)

溝口、日光江瀧村地所引渡二付遣と云

○和田・永峯、普請之不足金廿兩本遣す

橋爪貞二郎江小遣式兩遣す

竹内書状 向山黄村(3)

廿二日

服部綾雄 海野(4)

廿三日

今井信郎 山本庄右衛門 ○米利堅竹村(5)

来状

廿四日

佐々倉桐太郎 宮寄元立(7)
(8)

(1) 海舟子息

(2) 滝村鶴雄(家
達付家扶)

(3) 静岡学問所
頭・少参事・学校掛

(4) 服部常純(大
参事・军事掛)

(5) 箱館降服人・
静岡藩預

(6) 竹村謹吾(家
達付家扶)

(7) 権少参事・郡
政掛・水利路程掛

(8) 静岡学問所三
等教授

廿五日

川村⁽⁹⁾隱居 山岡氏、志太之事話有之

廿六日 本月初而好雨、冷風凌々

竹川⁽¹¹⁾良之助、木村霞宿夕返納金五十兩持參

吉水才一郎、明日出立之暇乞

今井信郎、露米英字之事申聞る

廿七日

藤沢⁽¹²⁾長太郎 和田助三郎

廿八日

瀧村小太郎、日光江大猷院殿御廟地引渡ニ付受取

として出張、大坂吉兵衛江暮らし金五拾兩届方

頼む 太田・藤田江手当六兩宛渡す、海野江三兩

同断 妻木⁽¹³⁾務、尾張江被頼候旨話有之

川村隱居 伊素精⁽¹⁴⁾一郎

廿九日

(9) 川村帰元

(10) 信太歌之助(もと歩兵差図役)

(11) 竹川龍之助(又十郎、静岡勤番組世話役頭取)か

(12) 藤沢次謙(少参事・軍事掛)

(13) 妻木頼矩(七月二十三日名古屋大参事となる)
(14) 火消、尾張へ出張

惣左衛門江梅ヶ島之代金百兩渡す

七月朔日 小雨、炎熱少去

大川⁽¹⁾、永峯⁽²⁾・人見⁽³⁾の申越候由、東京にて参議卿

等免職、木戸⁽⁴⁾壻人残り、西郷殿参議と云

室賀、一堂様御男子御出生之旨也

松岡萬⁽⁸⁾

二日

確堂殿の砂糖 対州知事殿の虎皮一張

米国の来状、仏郎西戦争之因、白峯⁽¹⁾の本

冊差越 高橋隆太郎

三日

藤田一郎 人見勝太郎、東府の帰り種々の話

有之

四日

服部氏、八日東京江交代出立暇乞 浅野⁽¹²⁾

新谷藩
中泉果江

(1) 川矩文・永峯弥吉・

人見寧(集学所)

(4) 木戸孝允(参議)

(5) 西郷隆盛(六月二十五日に参議)

(6) 徳川慶喜

(7) 敬事(慶喜長男、六月二十九日生)

(8) 松岡古道(開墾掛並・水利路程掛・製塩方頭)

(9) 松平齐民(もと津山藩主)

(10) 宗義達

(11) 白峰駿馬(アメリカ留学中、もと海援隊士)

(12) 浅野氏祐(權大参事・政事庁掛)

書物遣す

氏、大屋集学所江米三十俵被下之事、

永峯已下俸金被下之事其他内談

五日 橋爪正一十兩遣す次男之礼申来る

人見勝太郎 黒沢哲助神足之人也 林三郎、

東京も帰府 室賀竹堂、紺屋丁御出生江

御名可考旨ニ付敬事様・定尔様之両様認止

六日

林三郎 和田勝太郎(13) 室賀竹堂、御出生

御名附候ニ付硯被下、同人口上申聞る

七日

太田・海野并西條藩

八日

信田歌之助、奈良江参り候旨海江田氏江伝言申遣す(14)

片山雄八郎(15)

九日

此夜風雨
バルメター
七十二拇

平戸藩

徳賀脩介

弘前藩

成田久太郎

(13) 和田勝正(明治二年当時は掛川奉行二等勤番)

(14) 海江田信義(奈良県知事)
(15) 片山椿助(軍事掛俗務方頭取)

筑前藩石田新六郎、知事御免ニ相成候付国許江

出立暇乞并後來之心得を答 川田江一封認

浅野江永峯已下黒沢入塾之事等申遣

山岡氏

十日

藤沢長太郎 石川渡、外国人雇ニ付被 仰出書

付等持参 和田勝太郎、御米被下之書付渡す

溝口八十郎、静閑院宮様 朝ニ而御法相立、御附

御免之旨也

十一日

片山雄八郎 林三郎

十二日 林三郎

十三日

沼津々生徒三人 原田五郎左衛門、同人究迫

五十両助力、浅野江相談相渡

(1) 黒田長知(福岡藩知事、明治四年七月二日に罷免)

(2) 石川利行(権少参事・監正掛)

(3) 徳川家茂御台所

永峯已下世話掛被申付候礼

十四日 使之衆江三百疋遣す

沼津生徒中川錠藏・矢吹恒藏・永峯矯四郎、

海軍相学度旨ニ付赤松江一封認、沢江出京為致

候旨申遣す 原田五郎左衛門

妻木務、明日東京江出立と云

十五日

関口潜三郎 池田一郎 海野貫一郎

十六日

梅沢鉄三郎 佐久間千三郎、佐土原江参り度旨、

戸川之一封持参、同人々十五日知藩事廢

之被 仰出有之旨申越

十七日

昨日戸川々一封、知藩事被 廢、県と成

弁官御廢、其局々江可申出等之旨

(4) (5) (6) 中川将行・矢吹秀一・永峰秀樹(沼津兵学校資業生)
(7) 赤松則良(兵部大丞)

(8) 関口潜(隆吉の弟、のち静岡県出仕)

(9) 池田忠一郎(忠一・静岡学問所五等教授)か

(10) 梅沢敏(集学所)

(11) 佐久間貞一(もと掛川勤番組、安井息軒塾生)

(12) 戸川安愛(権大参事・公用掛)

申越 佐久間千三郎江五拾兩渡

永峯弥吉

十八日

花野女子⁽¹⁾ 人見・梅沢・関口 浅野江孝仏

記事七冊遣す

十九日

山岡氏 名護屋書生老入 太田、

東京江参り度旨申聞

廿日

戸川平太今日帰駿之旨 溝口八十郎、本

日知事殿免職之事

廿一日 織田石原田・下山江渡候五十兩宛百兩受取

織田泉之⁽²⁾ 下山逢吉

廿二日 越前江一封差出す、浅野江頼遣す

元知事殿九月中出府可致旨之御達来ると云

(1) 木城花野 (大
学南校貢進生木城直
の母、女流歌人、私
塾経営) か

(2) 監正掛下監正

廿三日

下山良太郎⁽³⁾

廿四日

松平勘太郎⁽⁴⁾ 向山黄村 門屋村江行く

廿五日

駒井竹所 溝口八十郎 人見勝太郎・西野⁽⁵⁾

三郎 戸川江一同安心之様書付差出事談す

廿六日

浅野・戸川両氏、一同江御書取下案相談

神保霞栖 中川泉助 横山三八 池田⁽⁶⁾

忠一郎

廿七日

林三郎、大川・人見扶持方身分之事申聞 近藤

誠一郎 太田・藤田・荒野^(海方)江月俸渡す

多田銃三郎⁽⁷⁾ 牧野田三⁽⁸⁾

(3) 明治二年当時
は二等更番組

(4) 松平信敏(少
参事・政事庁掛)

(5) 中条景昭付属、
水戸出身

(6) 池田忠一(静
岡学問所五等教授)

(7) 掛川最寄権少
参事

(8) 牧野成行(権
少参事・監正掛)

熊本

原田謙吉

廿八日

○和⁽¹⁾田助三郎・大川御手当之事、向山江一封遣す

○今井要作、四ヶ月分御手当受取度旨申聞

甚太郎 ○武蔵孫三、修行并身分之事申聞

向山江行く、集学所人別之事并御手当之事談す、

宮田・石川江同断

廿九日

江連真一郎 橋爪貞次郎、月俸一両遣す

菊地計三 安部潜⁽⁴⁾一封

晦日

田付右膳、五拾兩用立 惣左衛門、井戸之代五

兩渡す

八月朔日

官薩人瀨辺群平、村田新八之書状持参、仏郎

練兵心得候者兩三人借用之事申越、戸川・藤

(1) 集学所教師

(2) 江連堯則(真三郎、静岡学問所付属小学校頭取)か

(3) 橋爪正英(権少属)の次男

(4) 阿部潜(少参事・軍事掛、鹿児島招聘)

(5) 田付直愛(静岡勤番組世話役頭取)

(6) 宮内大丞

沢江談す 戸川平太 布施金弥 男谷

勝三郎 大川正次郎

二日

浅野・溝口・御住居江参 関口鉄三郎、松岡

萬、同人方江行く 山岡・中條来訪

駒井 幕内・多田江月俸二両宛、関口江渡

三日

今井太郎親江、当暮迄四ヶ月分学科廿四両

渡遣す 中野对馬 堀遥帰国暇乞

和田助三郎

土州

笹村由喜男

関哲四郎

和歌山

三宅貫造

中川審六郎

五日

溝口八十郎 藤沢江石橋之事談す

四日 従三位殿御告志艸案、溝口江渡す

藤田一郎 酒井閑亭 浅野・戸川・織田氏、

元知事殿家禄政事江差込遣居候事之相談

(7) 布施讓(静岡学問所五等教授)

(8) 権少参事・郡政掛

(9) 大川矩文(箱館降服人、もと伝習歩兵隊歩兵頭並)

(10) 中条景昭(開墾掛頭)

(11) (12) 幕内幡次郎・多田為之助(集学所)

(13) 東京修行人、親は宗作

(14) 豊岡藩士

(15) 徳川家達(もと静岡藩知事)

(16) 酒井忠績(もと姫路藩主)

京都府少属
高木尚徳

藤田・太田東京修行之事談す

藤沢、官兵教示之者名前測辺江申遣

六日

測辺江藤沢之書状持せ遣す、并沼津へ兩人

御借申候積取極む 中村小周次⁽¹⁾

武蔵孫三集学所江入候旨、月俸二両宛遣積

宮寄元立、近々弘前江出立之積 田中総三郎⁽²⁾

七日

松平太郎、明日国許帰り候旨 太田・藤田、明後

日出京之由申聞

八日

松平三郎、今日帰国暇乞 石井謙二郎⁽³⁾ 吉水⁽⁴⁾

左一郎、明後日出京ニ付暇乞 下山良太郎、中川方⁽⁵⁾

退塾之旨申聞 太田・藤田出京之暇乞、

四月より当月立替修行料三十両宛返

(1) 中村秋香 (静岡学問所調役)

(2) 宮崎立元 (静岡学問所三等教授、弘前御貸人)

(3) 箱館降服人

(4) 石井謙次郎 (もと撒兵差図役並勤方、明治四年に帰農)

(5) 鹿兒島藩士

(6) 中川忠明 (静岡学問所和蘭学・独逸学教授) か

弘前

対馬嘉三郎

人見勝太郎⁽⁷⁾

九日

浅野氏、人見・山本七兵衛、同人之事浅野江談す

片山雄八郎⁽⁸⁾ 松岡運九郎⁽⁹⁾ 疋田強造

十日 介左衛門、地面貸物代百三拾兩渡す

和田助三郎、李仏戦争凶出板之事談す

惣左衛門・介左衛門⁽¹⁰⁾ 朝倉藤十郎⁽¹¹⁾、山本七兵衛之事

申聞 宮寄愚⁽¹²⁾

十一日

高木尚徳 池田忠一郎外老⁽¹³⁾人 梅沢鉄三郎

杉山三八⁽¹⁴⁾ 向山江行く 人見 石野

十二日

石野源吾⁽¹⁵⁾

十三日

中村々使、ポンプ清水江参り候旨申越

(7) 人見寧(集学所)

(8) 军事俗務方頭取

(9) 松岡古武(製塩方取締)

(10) 白鳥惣左衛門(安倍郡門屋村名主)

(11) 朝倉景寛(監正掛・少参事)

(12) 宮崎立元

(13) 梅沢敏(集学所)

(14) 杉山親(静岡学問所三等教授)

(15) 石野正修(小島勤番組世話役助)

金沢

岡野悌五郎
多賀賢三郎

棚倉

柴田秀雄

弘前

手塚元瑞

十四日

越前より米師雇入条約下案来る、直ニ浅野江遣

対馬嘉三郎、明日出立暇乞

宮寄愚、明日弘前江出立暇乞

十五日

田代五郎、村田新八殿書翰持参、大砲教示

之者借用いたし度旨、早速藤沢江申遣

人見勝太郎、山本七兵衛之事相濟候礼、并東京三兩遣

江遣候旨申聞、梅沢鉄三郎、高城七之

丞、藤沢江行き借人之事談す

松平能登守并従者、直助

十六日

田代五郎、県庁江参り度旨ニ付権大参事江

一封認渡、福岡久・根元盧水、彦

根福永干城、藤田藤之助、高木尚徳

(1) 松平乗命(美濃岩村藩知事)

(2) (3) 水利路
程掛・権少参事

十七日 ホンプ会所江遣す

昨尾州青山魁の書状、大岡・堀江帰へし候旨也

田代五郎、藤沢・大築ニ逢候上沼津江出立之趣

申聞 成田外壱人 水穂屋卯三郎の一封来

十八日 山本御手当、東京にて可渡様浅野江談

伊素精一郎 ○池田忠二郎、明日出立暇乞

御住居・浅野江行く、金谷江書付出たすへき旨談

十九日

弘前県士兩人 高木尚徳 松寄和一郎

溝口八十郎、是非共出京之事申聞 惣左衛門

方江遣す金子百両預り置 深津仰山、

米国同人悻之事申聞

廿日

人見勝太郎、来月頃御米御下ヶ被下度、且久能

之明家跡之集学所江引移度旨

(4) (5) 大岡忠良・堀江当三(沼津兵学校資業生)

(6) 大筑保太郎(尚志、沼津兵学校頭取並、十一月二十三日

に陸軍中佐兼兵学助)

(7) 清水卯三郎(洋書・西洋道具商)

(8) 火消、尾張へ出張

(9) 弘前御貸人

(10) 深津正邦(病院俗務取扱)

(11) 深津保太郎(アメリカ留学中)か

山岡氏 ○中村弥三郎、徳公之事談す

廿一日 星野虚舟

人見の手紙、御本引取之旨 岸本精一郎⁽¹⁾

山路弥左衛門妻 古屋佐久左衛門来、十両⁽²⁾

遣す ○福田敬業の一封来る⁽³⁾

廿二日 米国来状

瀧村、廿五両吉兵衛江届方被頼 ○浅野江星野⁽⁵⁾

附属之者之事、并廻り方之事、大屋集学所

之事、飯米之事等談す、且米教師

伝習掛之事等 ○橋爪貞二郎

高木尚徳⁽⁴⁾至来 蓮永寺江米教師

為坐敷御用之事談す

東京より御用召来る、早々出府可致旨也

廿三日

高木尚徳⁽⁶⁾明途暇乞 由利元十郎 戸川

(1) 大垣藩士

(2) 山路金之丞(愛山の祖父)の妻ふさ子か

(3) 古屋佐久左衛門(箱館戦争で戦死)の息子庚次郎か

(4) 金沢藩士

(5) 滝村鶴雄(家達付家扶)

(6) 由利元(静岡勤番組頭並)

五百兩

氏、浅野留置度、交代者織田・戸川にて可致

旨内話 御住居江行く

廿四日

中村弥三郎、徳公引取十五兩 半年分

渡す ○中島外老入 溝口八十郎暇乞

三位殿々金子被下 中村敬太郎・人見・

矢田堀、伝習教師之事相談

吉沢八郎 小田切綱一郎 高城 海野

廿五日

武蔵孫三、拾兩遣す 高城・田代江届

物被頼、右と紙包式ツ、瀧村・湯浅江御長持入頼

遣す 駒井竹所 惣左衛門悴、梅ヶ島之

事瀧村江可談旨申遣す、且山林式百兩にて

買揚呉候様申聞候ニ付承知候旨申遣す

矢口謙斎 藤沢長太郎 石井謙二郎

(7) 徳川家達

(8) 中村正直 (静岡学問所一等教授)

(9) 矢田堀鴻 (権少参事・軍事掛)

(10) 静岡学問所三等教授

(11) 湯浅貫一郎 (家達付家扶)

(12) もと昌平齋頭取、有渡郡で私塾主宰

(13) 藤沢次謙 (少参事・軍事掛)

(14) もと美加保丸乗組人、志太郡で開墾

頃日五六日
風雨、当日
甚敷

梅沢鉄三郎 浅野氏 貴志⁽¹⁾ 越之米教師
江贈物一見、并山田甲二郎江教師并村田⁽³⁾・堤⁽⁴⁾・
太田江礼状認渡置 酒井閑亭
高橋誠一郎

廿六日

林三郎、橋爪貞二郎月俸半年分六兩
渡す 布施金弥 織田氏六拾兩
持参、御手当計、他出ニ付不逢

下山良太郎・依田安二郎修行いたし度旨⁽⁶⁾
人見勝太郎・幕内・多田、半年分来四
月迄月俸二十四兩渡す 集学所

取建増代百兩渡す 片山雄八郎

紺屋町江参、式百金被下 他御金百兩、
集学所建立之為人見江遣せし也

廿七日

杉山三八⁽⁸⁾ 橋爪貞二郎 石河孝三

(1) 貴志忠孝(家達付家扶)

(2) 軍事俗務方介

(3) 村田氏寿(福井藩大参事)

(4) 堤正誼(福井藩権大参事)

(5) 太田資政(もと横浜英学所教師、福井藩御雇)

(6) 明治二年當時は二等更番組

(7) 依田守正(安三郎、水利路程掛郡方並、東京修行人)

(8) 杉山親(静岡学問所三等教授)

知事殿御来臨 一翁江一封、貴志江

頼む 酒井録四郎 矢口謙斎 石野源吾

山岡 浅野 戸川 織田氏 駒井竹所

田村弘蔵 向山黄村 矢田堀喜六

大久保一翁の文通

廿八日 出立 岩渕

廿九日 三島 金沢元知事殿江面会

九月朔日 小田原

二日 程ヶ谷

三日 着

乙骨初六人、梅屋敷迄御出迎

四日

武内半介 服部綾雄、五百両預り ○吉兵衛

去閏十月の当月迄大凡式百四拾両計二付、

先七拾両返済いたし置候事、此他昨秋借

(9) 酒井忠恕(家達家令)

(10) 浜松勤番組頭

並

(11) 矢田堀鴻

(12) 前田慶寧

(13) 乙骨太郎乙(静岡学問所一等教授、東京で研修中)

(14) 武内孫介(和歌山藩士)

(15) 服部常純(大参事)

用之分五拾兩差引ニ而廿兩共渡す

式分判式朱金共、式拾三兩三分引替頼む

松浦晴季江お花為手当として拾兩渡置 ○宮地⁽²⁾

助三郎 ○松平確堂公⁽³⁾ 飯塚簾作⁽⁴⁾

從三位殿の御長持江預候物并御肴被下

五日

出口清七 村田新八殿、大久保一翁出府

之事内話、直ニ一翁子江一封届方

御同人江頼む

六日

⑥ 浏览江高城之届物遣す

⑦ 東條の回章、家税可差出旨并坪数書

三通同人方江可出と云、家税去十一月の当九月

迄式分三朱と三百三十文届方頼遣す

服部の文通、条約之事、昨夜村田殿江

渡候一翁江文通之事等申越

(1) 海舟の妹

(2) 和田助三郎(集
学所教師)

(3) 松平齐民(も
と津山藩主)

(4) 飯塚年整(も
と掛川小学校教授、
明治四年に刑部省史
生)

(5) 徳川家達

(6) 浏览群平(鹿
尾島藩士)

(7) 東条悦三郎(公
用掛公用方中役)

(8) 一ヶ月家税
四匁九分四り
則六百八十文位

(9) 一ヶ月家税
四匁九分四り
則六百八十文位

吉水左一郎⁽⁸⁾ 小林虎三郎弟⁽⁹⁾ 大寄弥一郎⁽¹⁰⁾

矢口謙齋の文通、土井万太郎之事申越⁽¹¹⁾

東條八三郎⁽¹²⁾

七日

服部氏、条約書下案持参⁽¹³⁾ 木村芥舟⁽¹⁴⁾ 宮地

助三郎 川村権七 小林虎三郎兄弟三人 西周⁽¹⁵⁾

八日

服部江宅状頼遣す 今井・藤田、鶴殿之遺⁽¹⁶⁾

稿持参

九日 ○印入

依田安三郎・下山良太郎 海上⁽¹⁷⁾一造、依田・下山昨日

着之旨也 加藤栄造、明日帰郷暇乞

松方蘇助、松形一郎方同居之旨⁽¹⁸⁾

十日 ○大久保一翁之返書、村田殿⁽¹⁹⁾江為持遣す

溝口八十郎 藤田一郎、同人并太田外兩人江拾両

(8) 鹿兒島藩士

(9) 小林寛六郎か雄七郎

(10) 大崎昌庸(長瀨藩士)

(11) 家達付一等家従

(12) 東条悦三郎か(13) 木村喜毅

(14) 兵部大丞

(15) 鶴殿团次郎(長岡藩士、軍艦役、明治元年十二月に死去)

(16) 海上胤範(明治五年東京修行人)

(17) 松方正義(租税権頭)

(18) 九日条に入る記事か。

(19) 九日条に入る記事か。

宛四拾兩貸遣す 丹波光藏、已前神戸に

置候者、神戸之生れ也 於花江拾兩遣す

岡田清右衛門、合力頼む、三十兩遣す積決心

村上伯元 対馬嘉三郎 立田革・佐久間恪二郎、

北山安世発狂之処、実母を小刀を殺したりと聞く

十一日 神田婆々阿

服部江岡田之無心、藤田已下江四十兩借遣せし旨申遣

榎本行造 黒田江芝御霊屋之事大意相話

宮重、蝦夷地より帰府之旨 白井屑 都筑清

十郎入塾いたし度旨、閑亭殿江も頼候旨也 本多

敏三郎、大久保大藏卿江一封頼む ○日下薩藏、

昨上海々漢口江行き当度箱館江到りしと云

十二日 於亀

岡田巖穂江手紙、合力之三十兩遣す、同人

礼申聞ル ○和田助三郎、榎本々三百兩序より拝借いたし

(1) 村山徳淳 (奥醫師雇)

(2) 弘前藩士

(3) 松代藩士

(4) 佐久間象山の遺児

(5) 象山の甥、北山藤三郎(松代藩士)の兄

(6) 蕙(象山の姉)

(7) 榎本道章(亭造、箱館降服人)

(8) 黒田清綱(東京府大参事)

(9) 宮重信(十勝詰開業方御用取扱)

(10) 白井宗徳(もと新居勤番組)

(11) 酒井忠積(もと姫路藩主)

(12) 本多晋(租税権中属)

(13) 大久保利通

度旨也、断、仙台歟或者庄内江小子用立金之内受取

遣可申と申談す ○世良松橋 ○増上寺役僧念達、紅

葉御預り御道具頂キ度旨大僧正口上申聞 青山与三

福田半蔵、省魯録出板并序文代作頼ミ遣す

吉兵衛江暮らし金式分判百拾両渡 飯塚簾作

和田助三郎江戎服代拾五両遣す

竹賀⁽¹⁵⁾・梅沢⁽¹⁶⁾より一堂様御出生有之候由為知有之

十三日

飯塚簾作、吉岡之悴同道 松江飯塚、仏蘭

より写真相送る

十四日

日下薩藏、上林熊二郎同道 山本七兵衛・宮地

助三郎、榎本弘蔵江百両用立

毛利総八郎(20)が廿五両返金

十五日

(14) 福田敬業(金沢藩士)

(15) 室賀正容(竹堂、慶喜付家令)

(16) 梅沢孫太郎(慶喜付家令)

(17) 徳川慶喜

(18) 善事(慶喜次男、明治四年九月八日出生)

(19) 飯塚納(松江藩出身、フランス留学中)

(20) 毛利業広(米沢藩大参事)の子息

西郷殿江行く、小川町邸 赤城清隆寺江墓参

溝口江御靈屋之事并榎本之事等談す、且増上寺江紅

葉山御宮類御預ケ之分被下之事等談す

米利堅俾方々李仏戦争歴史耆冊来る、八月

六日附也

十六日

寺島外務太輔江、外国江私二行き候者所置

相談 卯三郎江行く 測辺群平

大久保殿江行、逢断被申聞 岩崎豊

太田外式人

十七日

屋敷江行く 服部江外国留学印章願下案

之事談す 日本橋辺遊行

大久保々逢断御託、出水一郎ヲ以而申越す

卯三郎々書籍来る 宅状来る、無別条

(1) 西郷隆盛(参議)

(2) 勝小鹿

(3) 寺島宗則

(4) 清水卯三郎(洋書・西洋道具商)

(5) 鹿兒島藩士

(6) 大久保利通(大藏卿)

十八日

大築保太郎、括板之事内話 ○卯木策

米沢高山与太郎・原三左衛門、毛利之挨拶

橋爪正一郎 堤省三 国産到来

服部より留学生之艸案差越

十九日

寺島江留学生之艸案為持遣す ○塚原

養父但馬歎願書通持参

県庁江出す活板之事、溝口・服部江談す

福田江訪ふ 永井盤谷ニ逢ふ 榎本江行く、

不在 ○寺島返書、何れ 参朝之節可伺旨

由利太田源三郎之書状差越す

服部江松岡磐吉家内扶持之事、塚原之事等

談す ○内田於夢来る

廿日

(7) 大築尚志(沼

津兵学校頭取並、十
一月二十三日に陸軍

中佐兼兵学助)

(8) 橋爪正英(貞
次郎の父、権少属)

(9) 塚原昌義(も
と外国惣奉行ほか)
か

(10) 由利公正(東
京府知事)

(11) 太田資政

(12) 箱館降伏人、
明治四年に獄死

(13) 海舟長女

寺島を留學生之事外務局江可願旨申来る

塚原之事近々可相済旨同断

増林寺男谷之墓参いたしす⁽¹⁾ 竹川竹斎

之一封、梅成を差越す ○毛利総八郎引取

米利堅小鹿を之一封外国人持参、留守にて

面会せず ○村田江過日来訪之挨拶二行く

和田助三郎、今夜静岡江出立ニ付教師之

事等申含遣す

廿一日

中井梅成、千疋遣す 吉兵衛 設楽完爾

服部を文通、教師条約之事、横浜江人可遣

事等申越、寺島之書翰并返書遣す 静岡

参事江教師之事其他申遣す、并中村・矢田

堀・人見江一封宅状共服部之使江附託す

廿二日

(1) 伊勢商人

(2) E・W・ク
ラーク(静岡学問所
教師)

(3) 竹村謹吾(家
達付家扶)

(4) 大久保三郎(忠
寛の子息、家達付二
等家従)

(5) ジェームス・
バラ(アメリカ宣教
師)

(6) 歌人、錦布商
大黒屋新九郎の子息

(7) 中村正直(静
岡学問所一等教授)

夜三人、御雇之米
教師クラルク来
訪、仮条約和文渡
す、小鹿并竹村・大
久保其他書状持
参、明日横浜江
参り候由、バラ并
方江尋
候へは居申候旨申聞

出邸、条約書乙骨ニ相認候様談す、出来之上

名倉⁽⁸⁾・乙骨為尋問して横浜江遣候事、服部

江相談、太田・藤田・今井金子之事返済ニ

不及旨談置く

廿三日

内田直之丞 肥後人兩人

廿四日

越前グリュ⁽⁹⁾ーヒス氏江クラーク来着之事等申遣、

太田源三郎同断、伊藤友四郎江二通共届方頼

溝口⁽¹¹⁾八十郎、当廿八日從三位殿外山邸江御引移

之旨村山伯元より文通 金沢江行く

島原二人 宮重新逢断⁽¹²⁾

廿五日

神明前・西久保辺遊行 川勝真藏ヲ訪ふ

瀧村小太郎、用事ニ付静岡へ来る、県地無事也と

(8) 名倉知彰(もと静岡学問所医師)

(9) W・E・グリ
フィス(福井藩理化
学教師)

(10) 福井藩士
(11) 溝口勝如(家
達付家令)

(12) 宮重信(十勝
詰開業方御用取扱)

池田吉右衛門 伊東友四郎の返書、越前米人江之書状

便有之差立候と云 金沢

廿六日

設楽莞爾 上総木更津佐久間某 服部氏、

沼津学校之事相談 山本弘太郎⁽¹⁾ 矢島源助

水穂屋卯三郎 吉兵衛 木村芥舟ヲ訪ふ

宮地助三郎、静岡を帰る、明日人見着之旨申置

廿七日

県邸江行く、 従三位様御立寄有之

乙骨・名倉ニ条約書之事、教法ヶ条之処

教師云々申聞之由承る 和田助三郎、静岡ニ而

大聖寺焼失之旨 岩尾 津田真一郎、

支那⁽²⁾之より帰朝ニ付来訪、種々話有之

廿八日 服部を寝台来る

戸山より県邸江出張 人見勝太郎着 五百両

(1) 和歌山藩士

(2) 津田真道(刑部中判事・外務権大丞、明治四年四月に伊達宗城全権大臣に差副として清国に派遣、九月二十日に帰朝)

洋札服部江渡す 津田江訪ふ

廿九日

島原本多陽也 堤五市郎 木村芥舟

本多敏三郎 川村権七、天璋院様(4)の琉球紬

被下 松平正二位殿(6)の肴 天竺屋江三両式分、

馬具之代払 石坂周造(7) 山口県書生兩人

服部(5)の五百両預り、過日差出候分返シ候也

晦日 晦日買物料二十五両式分払

石橋栄作・竹村琢郎、修行致候費用助力

願度旨 武藤甚五郎懇願書持参、知事殿江

御召仕之義願度旨也 天竺や拾二両、戦図十

お亀・三橋・御通壱両遣す 服部(10)の大儀見已下

文部省江可願旨外務省ニ而申聞られ候旨、并米

教師宗法之箇条抜キ候旨等申越

安場(12)の文通、明日在宅有之度旨申越

(3) 堤正誼(福井藩士)

(4) 本多晋(租税権中属)

(5) 徳川家定継室・篤姫

(6) 松平慶永(麿香間祇候)か

(7) もと浪士組、石油会社経営

(8) 石橋絢彦(沼津兵学校附属小学校)

(9) 沼津兵学校附属小学校

(10) 武藤孝長(沼津兵学校資業生)

(11) 大儀見元一郎(アメリカ留學生)

(12) 安場保和(平・大蔵大丞)

安部丈策

福岡県士召仕呉候様申参る 荒木卓司⁽¹⁾

小林六郎、魯省録之事并病翁万国⁽²⁾

奇観之後序持参

十月朔日 雨、此日廿日計快天也

服部氏、沼津学校兵部省関かつと成と云^(管轄)

人見勝太郎、昨日教師江五百弗渡す、跡三百弗也、

集学所本并宮路長屋之事等申聞 ○神田⁽⁵⁾

好平 大儀見已下之事、文部省江願出す御周旋

頼手紙認、服部江渡す ○安場一平、一翁・

山岡出府之事等内話、小拙出身之事、西郷・大

久保殿辺々口氣相含説得、答云殷之祖民

は周二不仕悠々寛容す、周之徳は至徳と云

へき而已にて如何と

二日 溝口江久能長屋集学所附属之事、書類之事⁽⁶⁾等談す

外山江出張、天璋院殿・実定院殿其他江

(1) 荒木卓爾(西周塾生、福井藩士か)

(2) 小林寛六郎(虎三郎の弟)

(3) 小林虎三郎(長岡藩士)

(4) E・W・クラーケ

(5) 神田孝平(十一月二十日に兵庫県令)

(6) 実成院(徳川家茂生母)

拝謁 矢田堀(7)越前クリュービス(7)差越之

定約英文并山田之手紙到来 ○安場(7)

一兩日由利江同行すへき旨申越 ○福田敬(8)

業より彫刻積り書付、青山持参

三日

溝口氏、三百両預り置、集学所蔵右之内

二而調遣可申旨答 乙骨昨日横浜より帰(10)

り、昨夜矢田堀(7)参候書状不残人見・服部江

一見頼遣す ○土岐逸翁・新堀、黒田旧知事(11)

殿入塾之事頼む

四日

黒田了介殿江行く、留守 ○渡辺魯輔、(12)

荒木卓爾海外江参り度頼具候様申聞

中條潜蔵 ○渡辺央、近々元徳島知事(13)

殿御出之旨申聞 ○人見・和田、庄内(14)高木三郎(18)

(7) 山田甲次郎(軍事務方)

(8) 由利公正(東京府知事)

(9) 金沢藩士

(10) 乙骨太郎乙(静岡学問所一等教授、東京で研修中)

(11) 秋月藩士

(12) 黒田長徳(もと秋月藩知事)

(13) 黒田清隆(開拓次官)

(14) もと和歌山藩士、岡田新五太郎の友人

(15) 中条景昭(開墾掛頭)

(16) 徳島藩士

(17) 蜂須賀茂韶

(18) 大泉(庄内)

藩士、アメリカ留学中

留学取替金三百両返弁、直ニ榎本行蔵

江用立、人見江書物代金年百両渡す

於亀江黒川紹介之手紙渡す 安場安場江の明日由

利江参候哉之旨申越

五日

宮地助三郎、明後日人見横浜江参候ニ付小鹿

方江一刀切共届方教師江頼遣す、外山・高木・

富田江一封宛 ○服部の榎本用立金百両、太田・

藤田・今井江用立金四拾両返却、預り置

黒田(4)從五位・土岐逸翁 古庄幾太郎

由利氏江訪ふ、御霊屋之事、東京衆民之事

等談す

六日

竹村琢郎江修行料助力甘金先渡置

人見勝太郎、大儀見已下之事云々、服部之口上有之、預

(1) 榎本道章(亭造、箱館降服人)

(2) 外山正一(アメリカ留学中)

(3) 富田鉄之助(仙台藩士・アメリカ留学中)

(4) 黒田長徳

り置く ○田所銀平江箱館杉浦江之手紙

并金貳百兩貸遣す ○石橋栄作廿兩

貸渡す、内拾兩預り置 高尾惣十郎

黒田了介殿、箱館之事種々話有之

柳河大村務、知事弟之事相談

町田江行く、留守ニ付置手紙

七日 黒川伝次郎

大築保太郎、活字之世話す 杉浦金二郎

立花旧知事殿御子息・大村務外屯人

黒田従五位・土岐逸翁・戸原春坪

川田熙、活字之事、御靈屋之事等申遣す^(マ) 服部

より文通、外国留学人之事田辺受合云々申越

黒田東京大参事江御靈屋之御所置内談す

八日

西郷殿一書、知事江御所置を云ふ ○町田文部大丞の返書、

(5) 杉浦誠(開拓
権判官)

(6) 立花鑑良(立
花鑑寛の長男)

(7) 町田久成(文
部大丞)

(8) 大築尚志(沼
津兵学校頭取並、明
治四年に陸軍中佐・
兵学助)

(9) 立花鑑寛(柳
川藩知事)

(10) 立花鑑良

(11) 秋月藩士

(12) 河田熙(もと
少参事・学校掛)

(13) 田辺太一(外
務大丞、岩倉使節団
に随行)

(14) 黒田清綱(東
京府大参事)

服部江為持遣す ○矢田堀より通弁之事申越、

返書邸江頼遣す ○津田真一郎江過日之礼申遣す

三位殿本日御用召、旧知事一統江華族之輩

勉励可致之御旨三条殿被仰渡と云 外山江罷出、芝・

上野御靈屋之所置東京府江伺書為認

柳河立花の直書

九日 終日大雨

服部氏、浅野出府之事、形勢之事、一封申遣

細瀨・中沢其他三名、修行料之事歎願

武内半介、黒田從五位入塾之事頼ミ、断ル

和田助三郎、教師定約書受取渡相済候

旨、十七日頃静岡江出立、十一日邸江来ると云

九十 服部、静岡一封

○上林 ○日下 酒井録四郎、今日芝・上野之墓祠

之事書付東京府江差出と云 市川直 原田

(1) 津田真道 (明治四年十一月に司法

中判事)

(2) 徳川家達

(3) 三条実美 (太

政大臣)

(4) 酒井忠恕 (家達付家令)

○松正⁽⁵⁾二位殿⁽⁶⁾九一并瑞穂屋・福田方を訪

十一日 ○⁽⁸⁾

黒田従五位入塾之事、土岐逸翁・宮崎・安達

申聞、断然断申述 中井梅成⁽⁹⁾、浅一如院

方江立寄之事申聞 大野信也外生徒彦人

太田并 孫四郎、修行之事頼む

県邸江行く、教師来訪

十二日

田所銀平、明日宮館江出船之暇乞 外山邸江行、

芝・上野御霊屋取毀或諸人参詣等勝手次第

之伺済 武内半介 川田江活板之事談す

十三日

本多敏三郎、外国行いたし度ニ付大久保殿

江申込呉候様申聞 長崎杉山徳三郎⁽¹⁾

梅田太郎⁽¹²⁾、神戸江参り度旨

(5) 松平慶永(麿香間祇候)

(6) 内田九一(写真師)

(7) 清水卯三郎(洋書・西洋道具商)

(8) 十日条の「○」のうちいずれかが入るか。

(9) 歌人、綿布商大黒屋新九郎の子息

(10) 大久保利通(大藏卿)

(11) 長崎海軍伝習所出身

(12) 梅田義信(もと精鋭隊並、静岡藩製塩方・浜松勤番組頭支配)

十四日

人見・宮地、同人は明日横浜江出立、人見は十六日頃出立、馬借遣し候積り取極 梅田江服部之一封認渡す

十五日

本多陽也
本多阿伎良

梅田太郎、願之事聞済相成候旨札

①久留島從五位家令浅川力

三位殿御出 長沢 ②宮重信ハ来状 服

部ハ勤番組住居地、寺院除地江可住、且家

建県費にて是迄之通取建遣度伺相談、

可然と答

十六日

③教師馬用立 藤沢江一封 ④向山江独逸之

辞書二部 ⑤○宅江二包、人見江届方頼遣す

来客七八人逢断る 安井丹三、於金出

(1) 久留島通靖(もと森藩知事)

(2) 十勝詰開業方御用取扱

(3) E・W・ク
ラーク(静岡学問所教師)

(4) 藤沢次謙(少参事・軍事掛)

(5) 向山黄村(少参事・学校掛)

身之事頼ミ遣す

十七日

荒木卓爾、外国行之事頼む 原田孫十郎・市川

直・永井弦一郎・山口圭三郎、修行料頂き度

旨 溝口八十郎 藤田一郎、小田原県士逢

申度旨逢呉候様申聞 上野御靈屋江到る

十八日

町田文部大丞江留学生之談す 芝増上寺方丈

江御靈屋之所置談す、同所拝参 石川若狭来訪

服部夕県住居地并家屋之事ニ付大蔵省江伺艸

稿差遣す、山本権大丞江談す処不逢

手当七拾四両、十月三日・十一月晦日迄受取

十九日

安場江訪ふ、転役、山本江昨夜の事談す、服部

江右等相話す、但留学生入費区面引替之積

(6) 西周塾生、福井藩士か

(7) 沼津兵学校寄宿生、病氣退学

(8) (9) 永井当昌・山口圭三(沼津兵学校資業生)

(10) 石川総管(もと下館藩知事)

(11) 山本弘か

(12) 安場保和(十八日に租税権頭に転ず)

上野凌雲院江行く、普門院江面会、御靈屋
向之事談す

廿日

宮地助三郎 小林文周、兼而綾雄(1)申越候
事も有之候ニ付四拾兩借遣す 戸山江参上、
川田、芝・上野之事荒増話置く ○服部(2)の大蔵
省ニ而県士除地引渡并家作具費にて可取計
伺相濟候礼申越

廿一日

海上一造、原田孫四郎宜敷塾僕とても無之ニ付
帰国之旨 溝口八十郎、御暮らしの書付持参
本多陽也・本多阿伎良、近日帰国之旨 土州書生
久留島家令浅川力、若殿静岡江修行として参り
度旨 本屋市蔵、宅状持参、疋田出生死去(5)
之旨申越 横須賀之書生百兩遣すへき旨申聞ル

(1) 小林重賢(酒田降伏人、沼津病院付属)

(2) 服部常純

(3) 海上胤範(東京修行人)

(4) 久留島通簡(久留島通靖の弟)

(5) 孝子(海舟次女)の産んだ子供が死去したことを指すか

廿二日

柳川旧知事御子息 小笠原從五位并臣

下 從三位殿登 朝、舞楽拝見御料理被下

之旨

廿三日

早朝の外山江参

廿四日

江原桂介、商法之事申聞 増上寺役僧念達

木村芥舟、⁽⁸⁾ 鶴殿之遺書校正頼む 浜口大参

事

廿五日

大久保殿江訪ふ、留守 町田大丞二逢、留学

費用願之事願書引返可申旨話有之候

杉浦金二郎

廿六日

(6) 立花鑑良(立花鑑寛の長男)

(7) 小笠原貞正(もと千束藩知事)か

(8) 木村喜毅

(9) 鶴殿団次郎(長岡藩士、軍艦役、明治元年十二月に死去)

(10) 浜口梧陵(和歌山藩大参事)

柳河旧知事殿 浅野二郎八 杉本鈔二郎

奥沢某 佐久間恪二郎 宮重新

廿七日

早朝、戸山江行く、天璋院様御同道、浅艸・柳

島・亀井戸辺遊行

廿八日

久留島浅川力・宮野孫一 黒田内戸原春坪

伊谷十郎左衛門 天璋院殿、権七礼ニ来る

矢田堀、教師去ル廿四日静岡江着之旨申越

廿九日

立花若殿附、永田研吉外、立人

十一月朔日

黒田従五位附、榎本弘蔵 瑞穂屋

卯三郎 出石県榎井勉 乙骨、式百

両渡す 永井弦一郎 村田宮内大丞、

中沢廉平
細淵源一郎
加藤鉄太郎
立野雄二
福井伴三
兩人江
四拾両渡す

(1) 立花鑑寛

(2) 浅野氏祐(十一月十五日に静岡県参事)

(3) 佐久間象山の子息

(4) 宮重信(十勝詰開業方御用取扱)

(5) 鹿兒島藩士

(6) 黒田長徳(もと秋月藩知事)

(7) 榎本道章(开拓使権判事)

(8) 木村熊一(木村熊二の兄、出石県大参事、のちに松山県権参事)

(9) 村田新八(岩倉使節団に随行)

当七日洋行ニ付暇乞

二日

外山江参上

三日 米国江遣す届物御住居々来る、預り置

木村芥舟同道ニ而瑞穂屋并織田江行く

芝役僧念達、御霊屋之事仕法書付拝見

海上一造、深津登門之事頼む

四日 途中、黒田叶江過日之礼申述る

中條潜蔵・久保栄太郎、金谷江掃郷暇乞 大井

栄之助、溝口使遣す 薩州御親兵三人

三池泉森脩

大久保殿江暇乞ニ行く、烟艸入呈上

五日 村田新八殿江暇乞ニ行く

浅野々文通、留学生之事、文部省江書付出候旨、

并書生学費金立替百五拾両差越

(10) 中条景昭(開
懸掛頭)

(11) 久保勝善(開
懸掛開懸方頭取)

薩御親兵三人 宮木鳴 榎本江織田之事

申遣、返書有之、猶又身分書付遣す

安場一平、洋行ニ付暇乞

肥田浜五郎、竹村江一封悻江一封届方頼

遣す 飯塚簾作江拾両遣す

六日

深津登門

藤田一郎・小田原県士壱人 海上二造 仙台县

伊右衛門 五山寺安意 江川英武、米国行暇

乞 福井貫属青木咸一 薩御親兵四人

柳原殿 ○浅野の県邸明日引渡之旨申越

石橋栄吉江預金拾両渡す

七日

県邸江行く、種々相談 綾雄一封来、加藤栄

蔵修行之事、医教師之事等

織田江行き植物掛之事申聞 榎本江一封認遣す

(1) 織田賢二か

(2) 岩倉使節団に
随行

(3) 肥田為良(横
須賀造船所技師長)

(4) 竹村謹吾(家
達付家扶、アメリカ
留学中)

(5) 勝小鹿

(6) 飯塚年整(刑
部省史生、弟十松が
アメリカ留学中)
事 (7) もと韭山県知

(8) 柳原前光(外
務大丞)

(9) 石橋絢彦(も
と沼津兵学校附属小
学校)

稲葉兵部大輔を訪ふ⁽¹⁰⁾

八日

細淵源一郎・中沢簾平・加藤鉄太郎江修行料
之内六拾兩渡す 外山江行く⁽¹¹⁾

九日

太田 薩御親兵兩人 安場江返事并浅野江

一封認書遣す 大艸多喜次郎⁽¹²⁾ 手島敬児、

身分之頼み 川村兵部少輔、人員之事内話⁽¹³⁾

榎本釜次郎已下近々御免之趣内話有之

大久保大藏卿殿、洋行暇乞として御出、国内御所

置之内話

十日

上野凌雲院江面会、普門院同道、諸御靈屋

拝参 織田賢司、開拓司江出役之旨

十一日 家作讓受代之書付、東條江出す⁽¹⁵⁾

(10) 稲葉正巳(もと海軍総裁)

(11) 大草高重(開墾掛頭並)

(12) 川村純義

(13) 榎本武揚(明治五年五月に開拓使出仕)

(14) 大久保利通(岩倉使節団副使)

(15) 東条悦三郎(公用掛公用方中役)

川田権之助 中沢又十郎 人見①来状、大屋村

住居之事、高之事等申越、即返書浅野方江頼

浅野②太田江遣す拾式両差越 伊地知某、

御親兵六人 佐久間恪次郎江廿両遣す、北山藤

三郎 伊志田、成川禎三郎之礼状持参

十二日 矢田堀③教師調物之書付急速相廻候様申越

御親兵乞書者廿名計 福田半蔵・小曾根

乾堂 梶④文通

十三日

太田忠二郎拾式両渡す、二ヶ月学費也

今井太郎、浅野⑤話有之書生

浅野江教師道具書付静岡江可廻⑥旨申遣

福田⑦使、竹遣す 杉山・中川⑧辞書之礼状

御親兵四拾名計乞書 木村江省魯録

校正頼遣す

(1) 静岡藩航運方

(2) 松代藩士、象山の甥で安世の弟

(3) 新治県権参事

(4) 矢田堀鴻(権少参事・軍事掛)

(5) 書家・篆刻家

(6) 玖磨(海舟の妾、梅太郎の母、慶応二年正月死去)の実家

(7) 東京修行人

十四日

太田源三郎、過日之返書、仁羅山銀二郎持

参 品川真太郎 黒田従五位、静岡

学校願濟、来る廿一日頃出立と云

御親兵廿名計乞書

十五日

木村芥舟、省魯録校正点付出来 月岡某

立田革⁽⁹⁾ 中川長五郎⁽¹⁰⁾ 浅野、文通、大久

保一翁・山岡鉄太郎再召之由申越 服部・向

山江黒田従五位殿入校之事申遣す 溝口八

十郎 御親兵、乞書者三十名計

十六日 宅状、神保霞栖所持 米国外山、来状

中尾卯三郎、五拾両借遣す

浅野、三遠駿三ツに分れ参事其他被仰付

と聞く 一翁静岡参事、山岡風聞にては水

(8) 太田資政(もと横浜英学所教師、福井藩御雇)

(9) 松代藩士

(10) 名古屋藩御貸人

(11) 大久保忠寛(十一月十五日に静岡県参事を命じられるが、十二月九日に辞職)

(12) 山岡鉄太郎(茨城県参事)

戸県江被命へき也と云 ⁽¹⁾益満弟

御親兵乞書五十人計

十七日

御親兵五六人 月岡兵記 黒田従五位家従杉

全謙初 依田安三郎、⁽²⁾福沢江月初入塾届

十八日

外山江参 浅野^{中尾}卯三郎江遣す五拾両返る

御親兵七八人

十九日

堀清之進 お花江⁽⁴⁾十五両遣す 有田元成

黒田従五位、静岡ニ付服部・向山江書状遣す

伊志田

廿日

福田半蔵、佐久間出板料三拾両預ケ遣

川勝新蔵、出役いたし度旨 岩崎豊元

(1) 益満宗之助(行靖、明治五年に陸軍少佐、休之助の弟)か

(2) 依田守正(東京修行人)

(3) 福沢諭吉

(4) 海舟の妹

織田藩士兩人 大岡斧太郎、拾両貸遣す⁽⁵⁾

御親兵三十人計 手島敬兎、兵部省江

被召出ニ付兄方江一封遣す

廿一日 米国富田・高木之文通届く

御親兵十五六人乞書 立花世子⁽⁶⁾ 木村芥舟

下山逢吉、近々静岡江出立之旨 日下薩藏⁽⁷⁾

梅沢・永峯・山高、静岡へ出府 恪二郎洋行⁽⁸⁾⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾

いたし度旨吉井江一封認遣す⁽¹¹⁾

廿二日

藤田・今井兩人 中川長五郎 西周江一封認⁽¹²⁾

遣す、渡辺魯輔 川村権七、明日天璋院

様御同行御待之旨申聞 岩寄鏡⁽¹³⁾

廿三日

天璋院様其他御同行、真崎より浅州

廿四日

(5) 東京修行人

(6) 立花鑑良(立花鑑寛の長男)

(7) 下山一敬(監正掛権少属)

(8) (9) 梅沢敏・永峯弥吉(集学所)

(10) 山高三郎(もと遊撃隊士)

(11) 佐久間恪二郎(象山の遺児)

(12) 吉井友実(官内少輔)か

(13) 兵部大丞

(14) もと和歌山藩士、岡田新五太郎の友人

(15) 河鱒家家臣

(16) 実成院(十四代將軍家茂生母)

福田の板下出来差越す 神保・駒井⁽¹⁾隠居

同行、千駄ヶ谷江行く 浅野⁽²⁾二郎八、一翁御断

申出候旨相談、如何可致哉と云 御親兵十人計

乞書

廿五日

溝口八十郎 駒井・神保、屋敷并悴之事談す

松平⁽³⁾大和守当時隠居某来訪 外山邸江参

廿六日

普門院江行く、御霊屋循拝、川田・永峯・梅沢・

山高同行 松平慶永の過日留守宅江立

寄候節之事申来る

廿七日 暁雪 御親兵乞書十五六名

神保・駒井隠居、屋敷并悴共之談す

大岡従五位 黒田従五位の礼使

廿八日

(1) 駒井竹所(朝温、もと海軍奉行並)

(2) 浅野氏祐(静岡県参事)

(3) 松平直克(もと前橋藩知事)

下山良太郎、辞書一冊借遣す 加藤栄蔵

竹内半助 佐久間恪二郎

廿九日

山岡鉄太郎 西郷殿江大久保之事認候一封渡す

金沢県士三人 海上(7)一造、深津之事 前島来助江(8)

一封認遣す 浅野次郎八・服部(9)の操替金四

百両差越す 木村芥舟、魯省録遣す(10)

溝口八十郎、明後日静岡立帰出立之旨

十二月朔日

島倉清太郎 青木咸一 由利殿江一封、川勝新(9)

蔵事頼遣す 浅湯貫一郎、永峯之御手当(10)

受取置 増上寺方丈の寒中、念達(11)

南部已下高知県三人 木下小太郎 佐久間

恪・立田・山寺 伊志田 金沢

二日 夜雪

(4) 明治二年当時
は二等更番組

(5) 武内孫助 (和
歌山藩士)

(6) 大久保忠寛

(7) 海上胤範 (東
京修行人)

(8) 前島密 (大蔵
省駅通察駅通頭)

(9) 福井藩士

(10) 由利公正 (東
京府知事)

(11) 湯浅貫一郎 (家
達付家扶)

浅野江行く お亀

三日

永峯・梅沢・山高、御霊屋之事相談、御手当三十

両・夜具代拾両渡す 山岡氏 北山藤三郎

四日

外山江参 成田 若松江八十両遣す

五日

神保、静岡帰りニ付手紙頼ミ 浅川力、元知事

殿弟之事頼ミ 川勝江老母死去之悔且出仕之

事申遣す 永井弦一郎五両遣す

市来四郎外壱人 東條悦三郎 木村芥舟

天璋院様江御召差上

六日

海軍所学生 鈴木瑕二、金沢砲薬之事

頼む 中井梅成 村山弘庸 堀禎之助 佐

(1) 久留島家家令
(2) 久留島通簡(も
と森藩知事久留島通
靖の弟)

(3) 永井当昌(沼
津兵学校資業生)
(4) 鹿兒島藩士

(5) 歌人、綿布商
大黒屋新九郎の子息

藤与之助

七日

今井・藤田、横浜江参り度旨 浅野氏 福

山県塩田閑鳴 紀州殿 福田、校正本

遣す

八日

立花元出雲守 河鱒(8)従五位殿三条家御令弟也

岩寄競 浅野(9)今井江学費操替渡之事

申越

九日

神田辺遊行

十日

浅野ノ使、一翁本官免、浅野静岡参事、

山岡本官被免之旨 長岡元良之助殿(10)一封、

近日来訪すへき旨也 恪二郎・立田革

(6) 佐藤政養(工部省鉄道寮鉄道助)

(7) 徳川茂承(もと和歌山藩知事)

(8) 立花種恭(もと三池藩知事)

(9) 河鱒実文(もと東京府権少参、三条実美の弟)

(10) 細川護美(もと熊本藩大参事)

山岡鉄太郎

十一日

浅野二郎八、授産法之事談す、其他相談 佐々倉

桐太郎、塚原歎願之筋申聞 小野友五郎

堀鼎 道造、静岡へ来る二付川々之事

申聞 早川豊太郎 天璋院様・両御隠居

様より寒中被下

十三日

細川従四位殿江行く、明春留学之話其他雑話

西郷殿江訪ふ、静岡官員其他授産之仕組、織田氏

遠州江御採用之事、一堂様御進退之事、小拙立帰

帰郷之事等談す 三橋江廿兩用立遣す

十四日

戸山江參上 中村敬太郎へ一封 佐藤与之助

へ北山藤三郎儀二付一封届き 妻木務へ一封、

(1) 水利路程掛

(2) 工部省鉄道寮

出仕

(3) 堀秀之(東京府権大属)

(4) 本寿院(家定生母)・実成院(家茂生母)

(5) 細川護久(もと熊本藩知事)

(6) 西郷隆盛(参議)

(7) 織田泉之(もと権大参事・郡政掛)

(8) 徳川慶喜

(9) 三橋虎太郎母

か(会計荒増)より、虎太郎は虎蔵(もと遊撃隊頭取)

か

(10) 古莊嘉門(熊本藩士)

(11) 中村正直(明治五年八月に大蔵省

翻訳御用)

(12) 妻木頼矩(名古屋県大参事)

(10) 布留庄已下之事、何と無く申試之処、力不及旨故、差控閉口
(付箋)
「細川家可然者江同話之月日」

卷物之事返シ呉候様申越

十四日

太童信太夫⁽¹³⁾ 海上一造六両借遣す

午後〆他行

十五日

瑞穂屋〆出版願、此かたに可致旨申越

浅野氏明日出立帰県と云 立田革 沼津書生

武藤三郎⁽¹⁵⁾、学費助力可致申遣す ○横井先生

甥元塾生伊勢佐太郎、米利堅〆帰りニ付話有之

堀小四郎⁽¹⁷⁾

十六日

織田賢司 福田敬業 林暁雪外壱人

重野新左衛門 桜井熊一⁽¹⁸⁾、北山藤三郎の事頼む

川勝新藏・木村芥舟、尾州青山朗〆

来翰、兩人県士にいたし度旨申越、当人了簡次第

にて不都合無之旨返書遣す 千住坂和屋徳

(13) 仙台藩士

(14) 清水水卯三郎(洋書・西洋道具商)

(15) 島田三郎(沼津兵学校資業生、明治四年に上京し同五年正月に大学南校入学)

(16) 横井左平太(小楠の甥)

(17) 堀利孟(十勝詰開業方頭)

(18) 桜井勉(木村熊二の兄、松山県権参事)

二郎母 箱館杉浦誠(1)田所銀平世話可致旨

来翰

十七日 終日雪

向山黄村同道にて戸山江参(2)

十八日 川勝新藏、出仕被 仰付

天璋院様御同道、浅艸(3)向島遊行

十九日 福田(4)板行出来之分差越

町田文部大丞江静岡学校之人員并入用帳差出、

情実内話、向山江行き転末談置

浅野氏(5)五百両預り

廿日 駒井竹所(6)一封来る

竹内帯陵、山岡江一封認遣す 酒井録四郎、

溝口江一封認遣す 長沢常山、明日静岡

江出立之旨、段々は迄之様子話置

向山(7)町田大丞殿之文通差越 永峯弥吉

(1) 開拓権判官

(2) 静岡学問所

(3) 町田久成

(4) 酒井忠恕(家
達付家令)

(5) もと日出藩権
大参事、明治四年十
二月に静岡県権参事

(6) 集学所

式拾三兩渡す 山寺丙

廿一日

向山黄村 西郷殿、一堂殿之進退、

諸官員之所置、小拙立帰々郷之事等皆

宜敷旨被申聞

廿二日

戸山江参

廿三日

山岡氏、浅野を預り金之内百兩渡す

梅成 福田鳴鷺江魯省録彫刻

料七拾兩渡す

廿四日

立花世子⁽⁸⁾ 森原士 川田熙 溝口八十郎、

唯今着京之旨ニ而立寄 大寄昌庸、

明日迄ニ式百兩借用いたし度旨、一身之浮沈

(7) 福田敬業(金沢藩士)

(8) 立花鑑良(立花鑑寛の長男)

(9) 長瀬藩士

に關係いたし候事也と聞く、承知旨申答

廿五日

福田敬業 佐久間恪二郎 山岡江一封認渡す

川村権七、天璋院殿御餞別持参 ○小笠原近江⁽¹⁾

守 従三位様御追訪、御餞別被下、直ニ溝口氏

江預ケ遣す ○大崎昌庸、式百兩用立遣す

廿六日 出立 廿七日 戸塚 廿八日 湯本 廿九日 着

晦日 一堂様江参、浅野江諸官員之所置談

米教師を訪ふ 服部氏⁽⁴⁾ 人見・和田⁽⁵⁾⁽⁶⁾ 中村

敬太郎

四壬申正月元日⁽⁴⁾⁽⁷⁾

浅野・戸川⁽⁷⁾・服部氏、戸川婦農之相相談、門屋

村之家借可申約す 宮田⁽⁸⁾・石川⁽⁹⁾撫育之事、

取調向内談、藤沢⁽¹⁰⁾々使

二日

(1) 小笠原貞正(もと千束藩知事)

(2) 徳川家達

(3) E・W・ク

ラーク(静岡学問所教師)

(4) 服部常純(静岡県出仕)

(5)(6) 人見寧・和田(宮路) 助三郎(集学所)

(7) 戸川安愛(もと静岡藩権大参事)

(8) 宮田正之(もと静岡権少参事)か

(9) 石川利行(同右)か

(10) 藤沢次謙(明治五年三月二十七日

に中議生)

米教師来訪、新聞之書冊六本、米国海軍

歴史二本、歩卒訓練書一本、小兒教本一冊、

ギツタペルカ之団¹布等借遣す

向山黄村、昨日帰着之旨 人見・梅沢¹¹・片山

松平勘太郎¹² 織田泉之江行く、額田県出仕

之事承伏

三日

門屋江戸川同行、藤沢同断 浅野 矢田堀¹⁴

林三郎¹⁵ 越前村田巳三郎、福井県

参事拜命、東京江出府と云 山岡¹⁶一封、

伊万里県権令ニ拜命、無扱場合之旨申

越

四日

酒井閑亭¹⁷ 梅沢・和田 服部・向山 人見江

行く、同人江三拾両用立

(11) 梅沢敏(集学所)

(12) 松平信敏(もと静岡藩少参事・政事庁掛)

(13) 静岡藩権大参事

(14) 矢田堀鴻(帰六・もと静岡藩権少参事)

(15) 明治五年四月に静岡県伝習掛

(16) 村田氏寿

(17) 酒井忠績(もと姫路藩主)

と姫路藩主)

五日 雪

小笠原敬翁御子息出身之事頼まれ 矢田堀

帰六、伝習并学校人員之事内話、蓮永寺

江月々遣す五両三ヶ月分預け置く

藤沢江行く

六日

鵜殿男外雄、団二著述出板之事ニ付東京

より来る 浅野・服部、小吏撫育之事相談

蓮永寺教師を訪ふ 甚太郎、久能刀

之事談す

七日

織田泉之 戸川平太 久松土岐三郎 小笠原

敬翁 惣左衛門 山林之讓証文并普請

勘定書差越 朝倉藤十郎、近藤誠一

郎之事談す 長沢常山、辰年已来之

趣意并県地之事共内話す

(1) 小笠原貞正(もと千束藩知事)か

(2) 鵜殿団次郎(長岡藩士、軍艦役、明治元年十二月に死去)

(3) E・W・クラーク

(4) 出島竹斎(小鹿村名主)

(5) 白鳥惣左衛門(安倍郡門屋村名主)

(6) 明治五年に静岡第五十七区戸長

黒田從五位⁽⁷⁾

八日

浅野・服部両氏、撫育之事談す、并御届書内

見、相談 中村敬太郎隠居之事相談

惣左衛門・介左衛門、寺地之事談す ○高城

矢田堀家作之事相談 一翁の来状

介左衛門江杉檜三千本之なへ木代六両渡す

九日

浅野氏、織田氏額田県出仕者六ツ敷、浜松御免

之事等内話 深津・向山⁽⁸⁾ ヲルス江一封認遣す⁽⁹⁾

室賀竹堂、一堂様御附改革之事談す⁽¹⁰⁾

十日

藤沢 矢田堀 川田 中村敬太郎 小田切綱一郎⁽¹¹⁾

山本眠雲⁽¹²⁾ 戸塚文海⁽¹³⁾

十一日

(7) 黒田長徳(もと秋月藩知事)

(8) 深津仰山(正邦、明治五年に静岡第四大区副戸長)

(9) トーマスハウオルシユ(アメリカ貿易商)

(10) 室賀正容(慶喜付家令)

(11) 静岡学問所三頭教授

(12) 山本堯直(静岡学問所五等教授)

(13) 静岡病院頭並

戸川平太 平田・河野兩人江拾五両遣す

浅野氏、榎本⁽¹⁾已下去六日御赦、一堂殿初爵位

被下と云、吾事一日を以而終ハる故に切髪ニ志

を示す

十二日 浅野ニ被頼、井上江一封認遣す

一堂殿御追訪 溝口・浅野 ○大熱ニ而臥床

十三日

三位様金二百両拝借、戸川氏手当用意為也

井上八郎⁽²⁾返事、金谷之事申越

十四日 戸塚文海 中村得太郎伯父也、養子口有之旨

戸川、三位様帰農ニ付二百両被下候旨礼

十五日

(1) 榎本武揚(三月六日に放免、同月八日に開拓四等出仕)

(2) 井上清虎(もと遊撃隊士、水俣県参事)

(裏表紙見返し)

若松県権参事

岡部弥起正藏
と称

受申触之

元□□四十一区
竹内静雄隠居
带陵

【付属文書】

① 名刺

児玉順三郎

② 名前書付

中川錠蔵
矢吹恒蔵
永峰矯四郎

③ 付箋

良之助殿、来訪
之事申越候月日来
状